

4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区の情報入手手段
 - (2) 必要とする区の情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
 - (4) 区の情報得られない理由
 - (5) 区の情報得られない理由の詳細
-

4. 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段

■ 「あだち広報」が7割強で変わらず首位も、「インターネット」が増加し順位を上げる

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(○はあてはまるものすべて)

図4-1-1-① 経年比較/区の情報入手手段

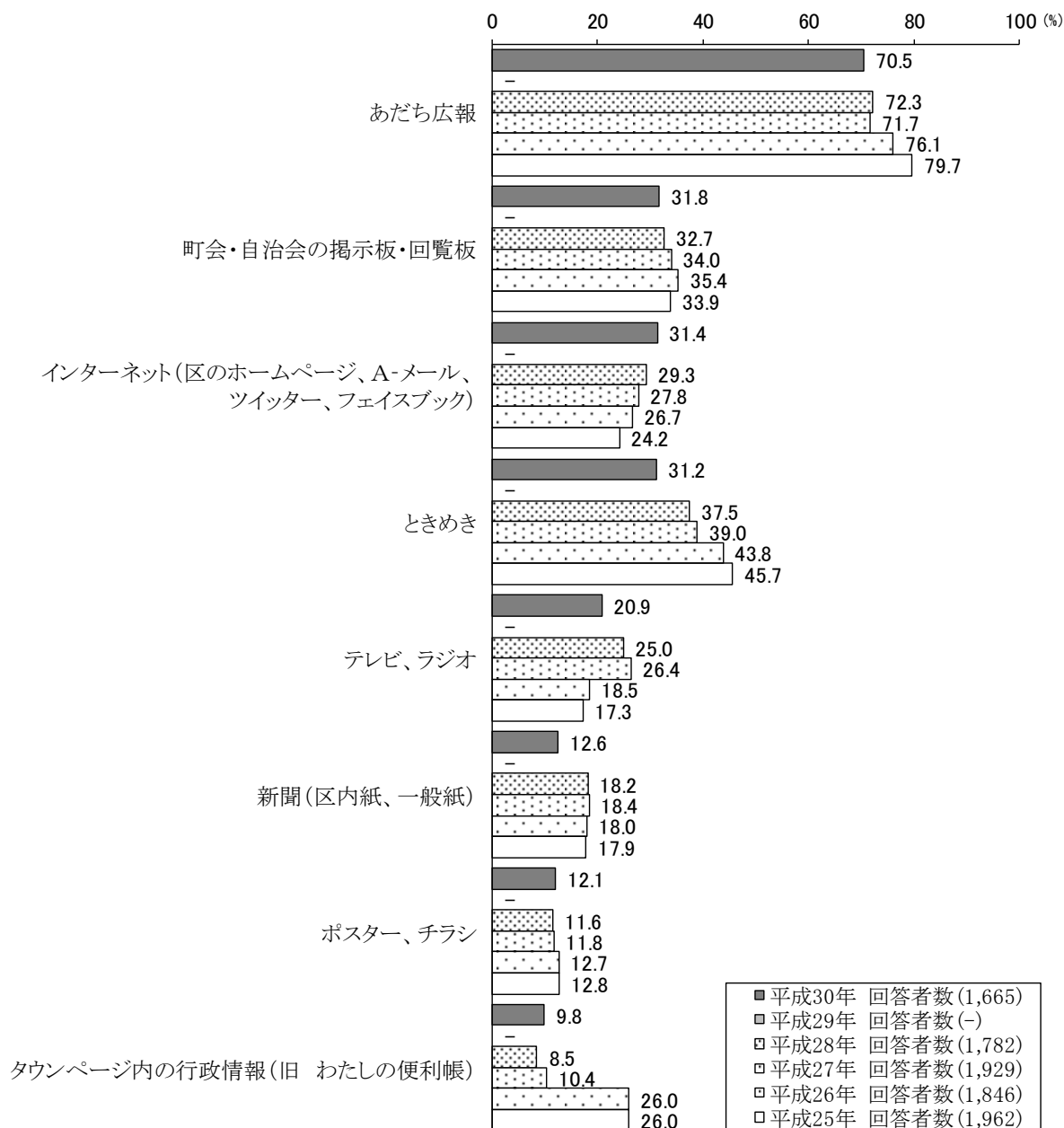
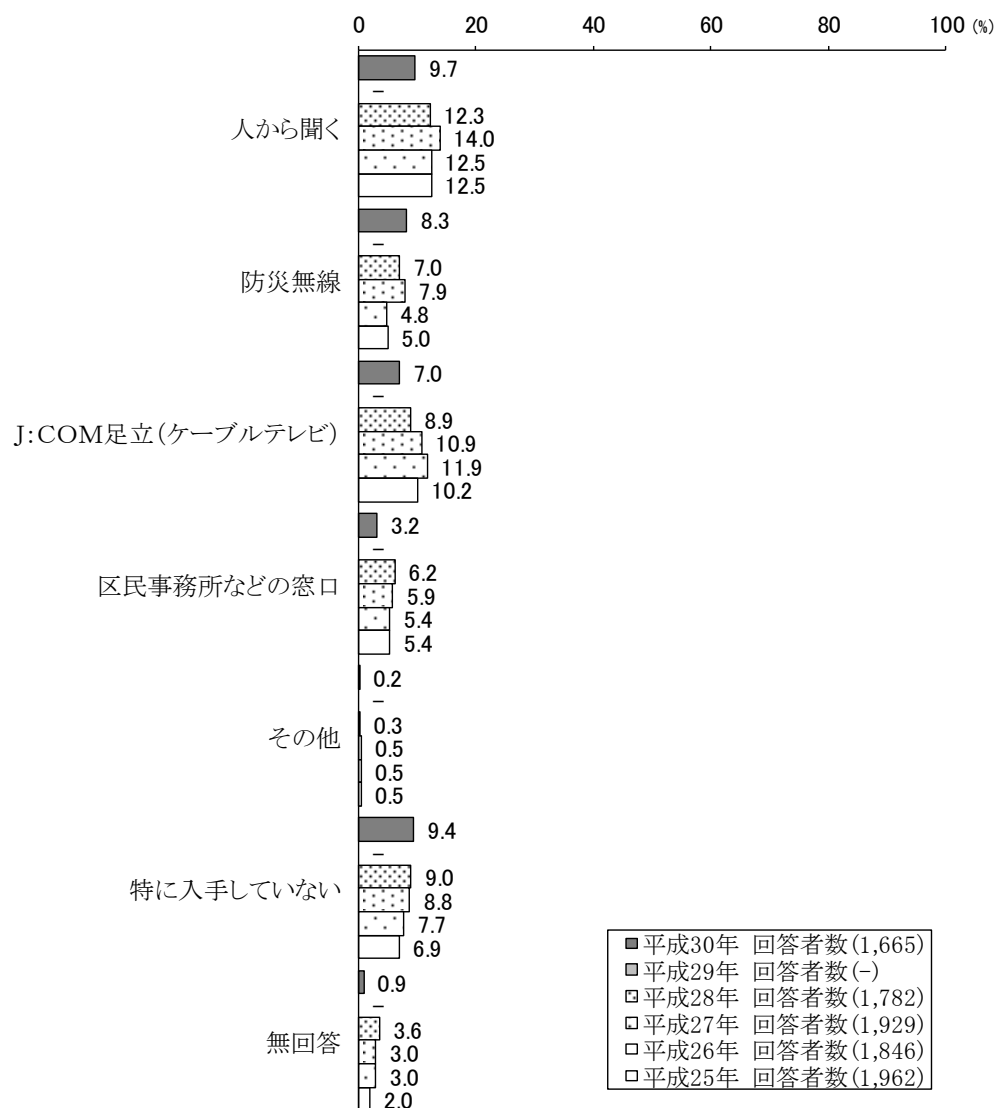


図4-1-1-② 経年比較／区の情報入手手段



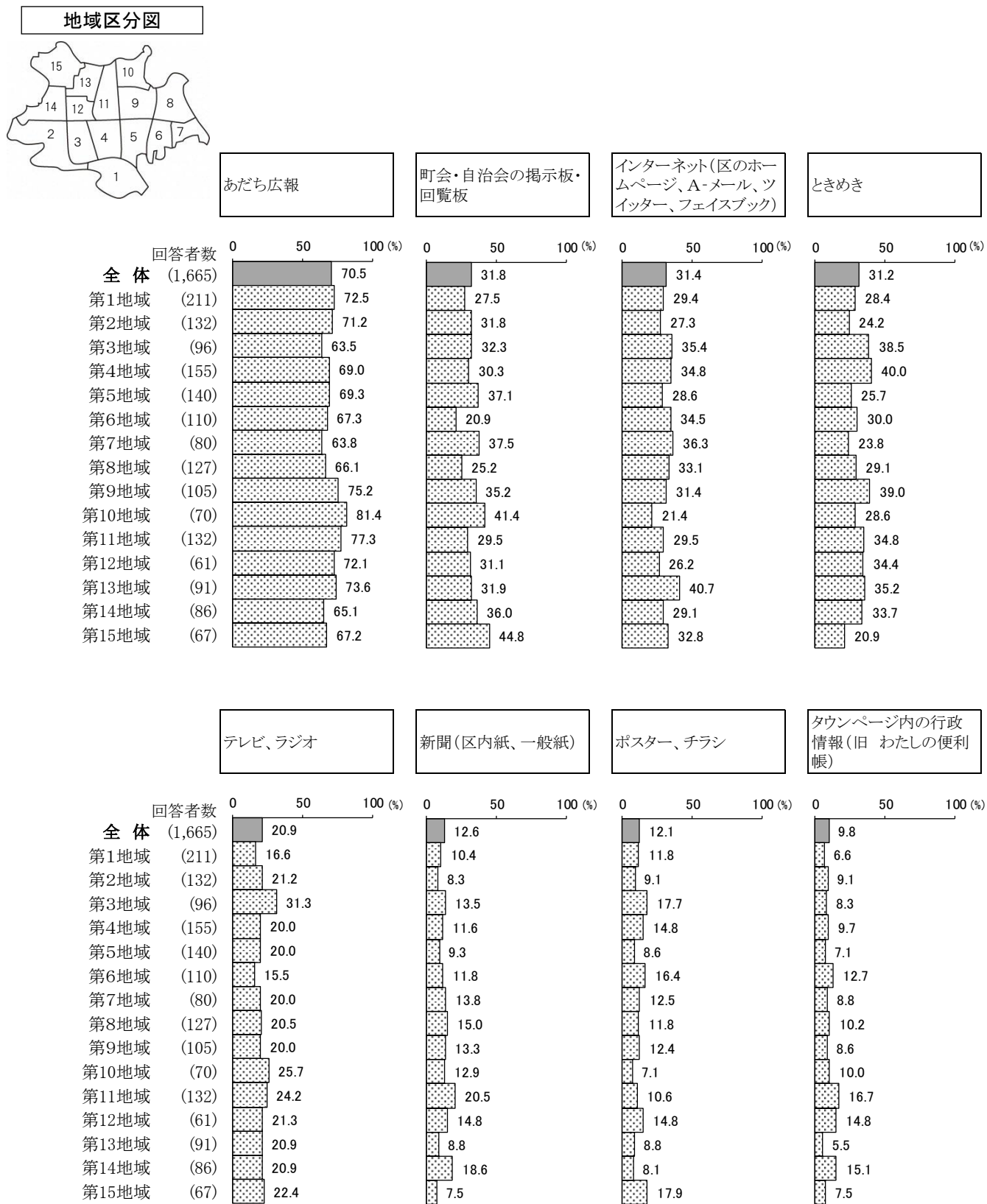
※本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が70.5%で最も高く、以下「町会・自治会 掲示板・回覧板」(31.8%)、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」(31.4%)、「ときめき」(31.2%)の順となっている。

経年でみると、「あだち広報」は、平成28年と平成27年調査ではほぼ横ばいであるが、平成25年調査(79.7%)以降、微減する傾向にあり、今回は70.5%である。一方、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」は平成25年の24.2%から漸増傾向にあり、今回は31.4%となっている。

地域別でみると、「あだち広報」は第10地域で81.4%と8割を超えて他の地域に比べて高くなっている。「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第15地域で44.8%と4割台半ばに達しており、第10地域でも41.4%と4割を超えて高くなっている。なお、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は第13地域で40.7%と他の地域よりも高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目



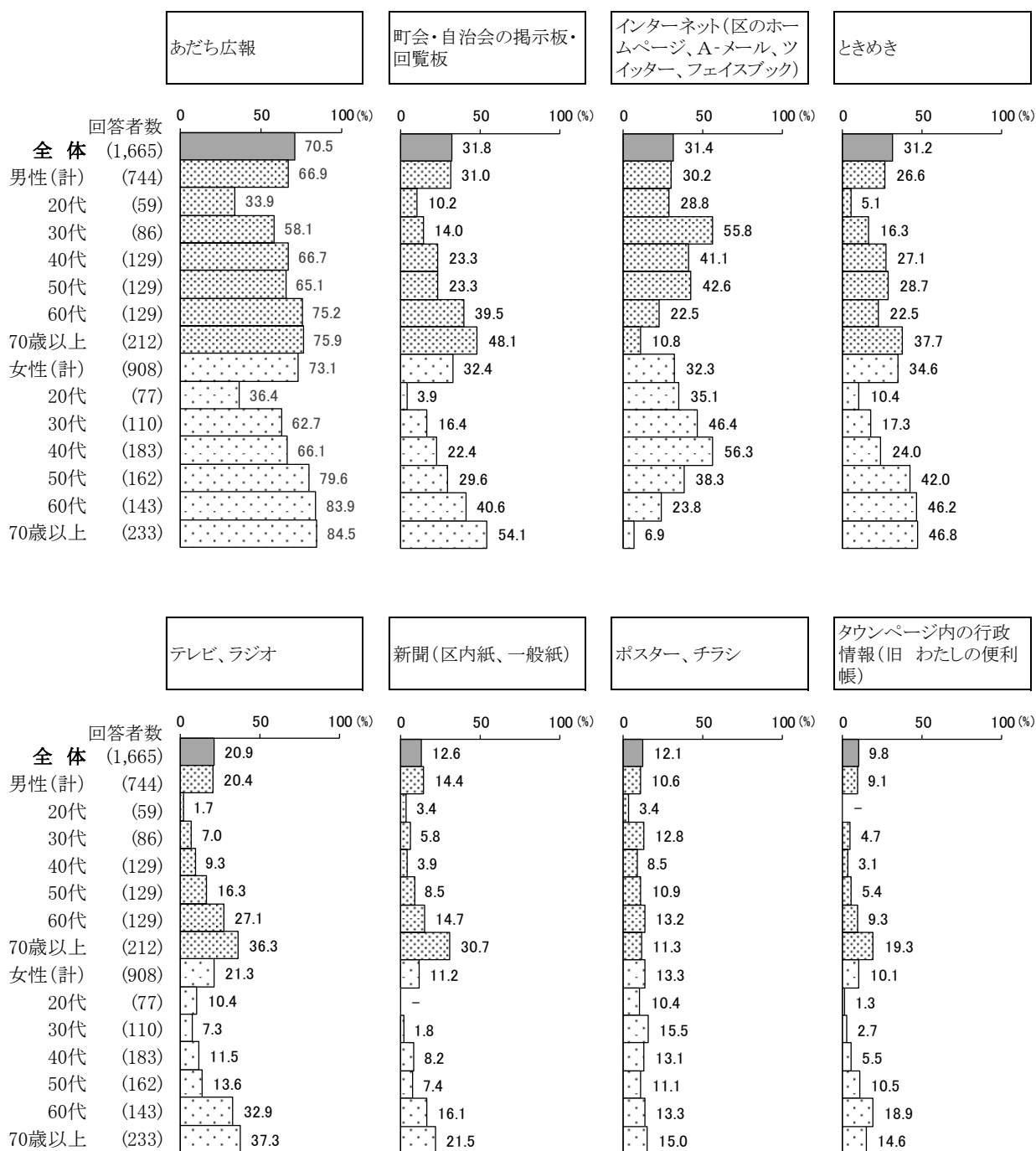
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別で見ると、「あだち広報」は男性 66.9%、女性 73.1%、「ときめき」は男性 26.6%、女性 34.6%と、ともに男性より女性が高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、60代と70歳以上の両層で「あだち広報」がともに7割台半ばを占めて高く、この両年代は「町会・自治体の掲示板・回覧板」においても4割から5割弱と高くなっている。なお、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は30代が55.8%と最も高く、40代と50代でも4割強となっている。

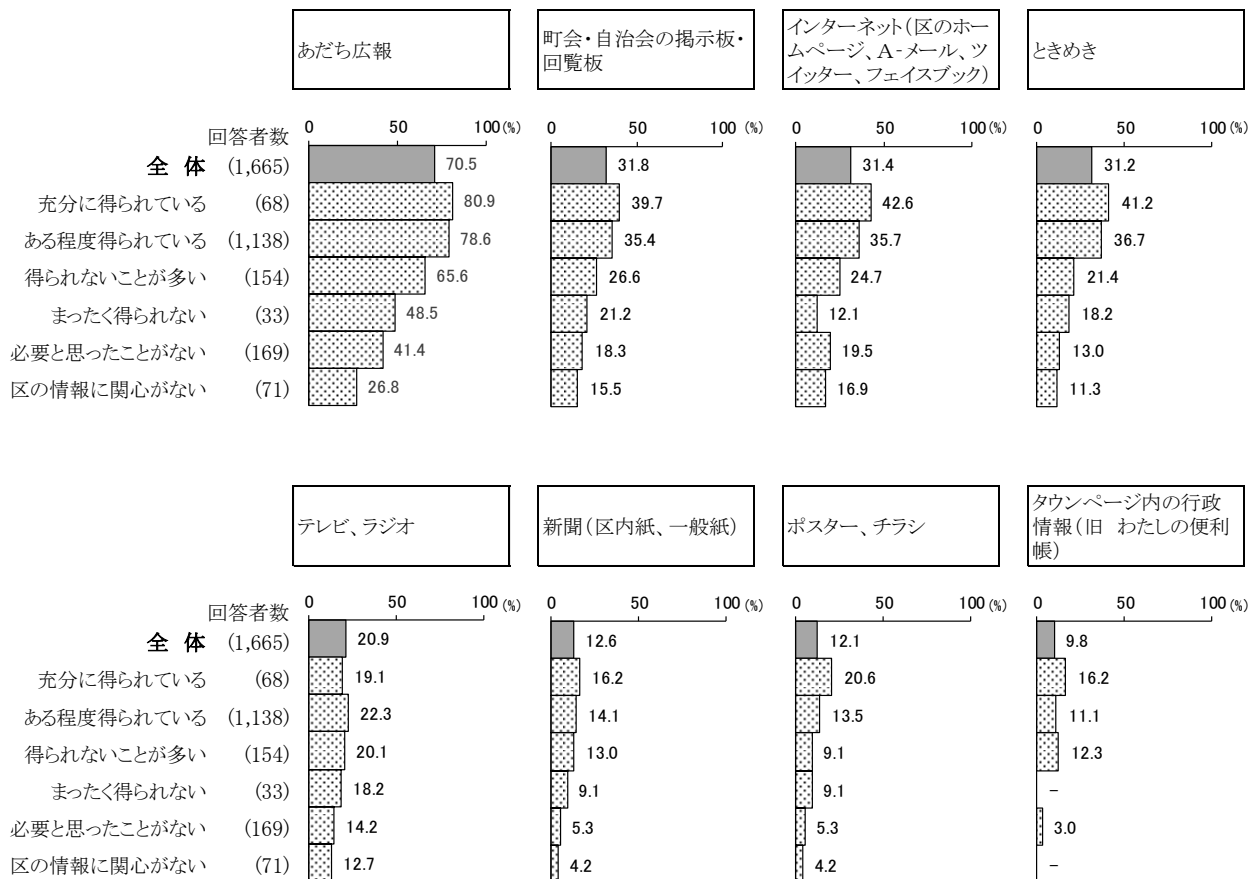
女性の場合、「あだち広報」「町会・自治体の掲示板・回覧板」「ときめき」はそれぞれ加齢とともに高まる傾向を示している。一方、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は40代で5割台半ば、30代で4割台半ばと、この両層で高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、上位の「あだち広報」「町会・自治体の掲示板・回覧板」「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」「ときめき」では、情報が得られている層ほどそれぞれの割合も高まる傾向を示している。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 必要とする区の情報

■ “健康や福祉”と“災害や気象”がともに6割弱で上位

問15 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか。
 (〇はあてはまるものすべて)

図4-2-1-① 経年比較/必要とする区の情報

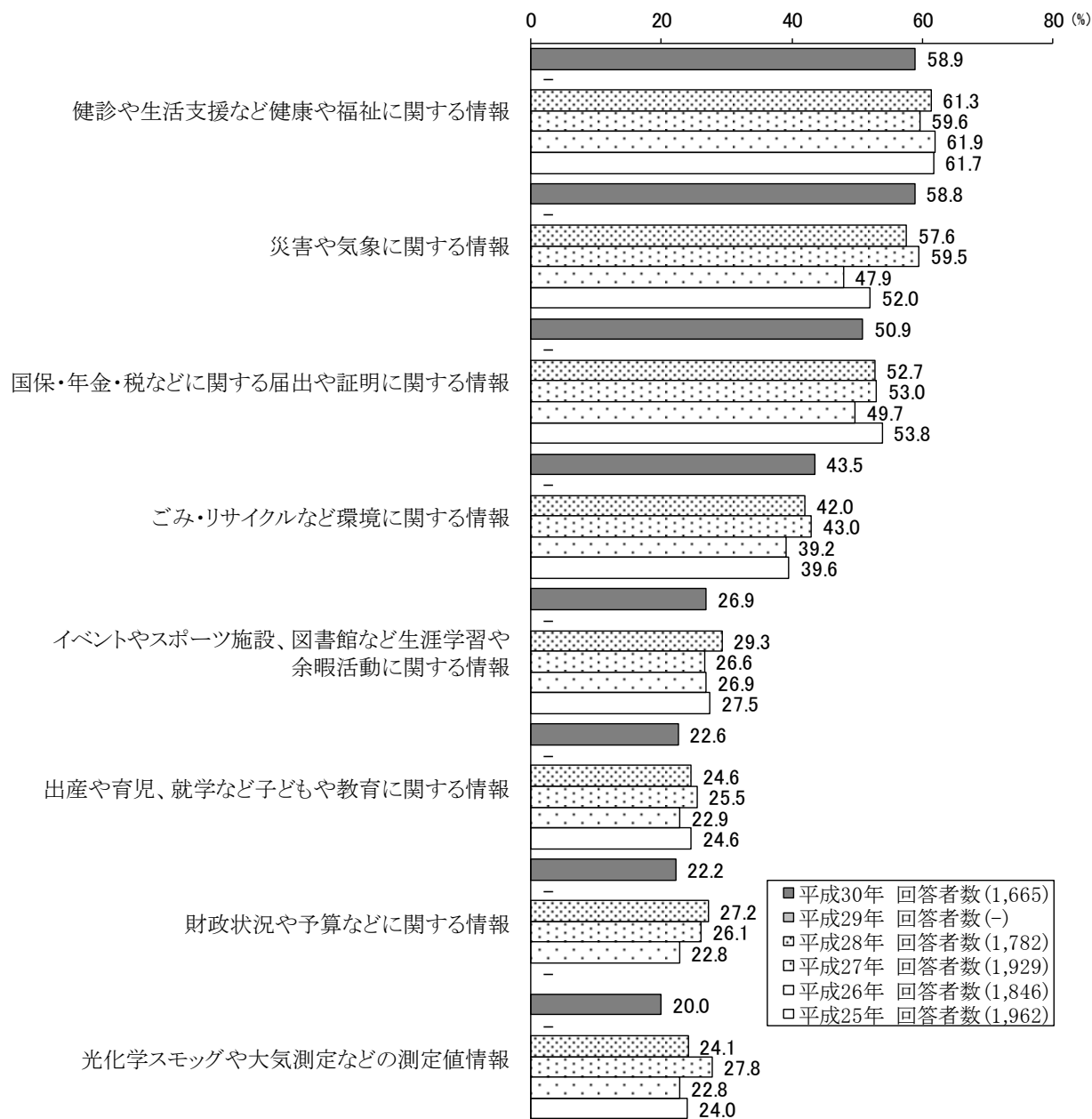
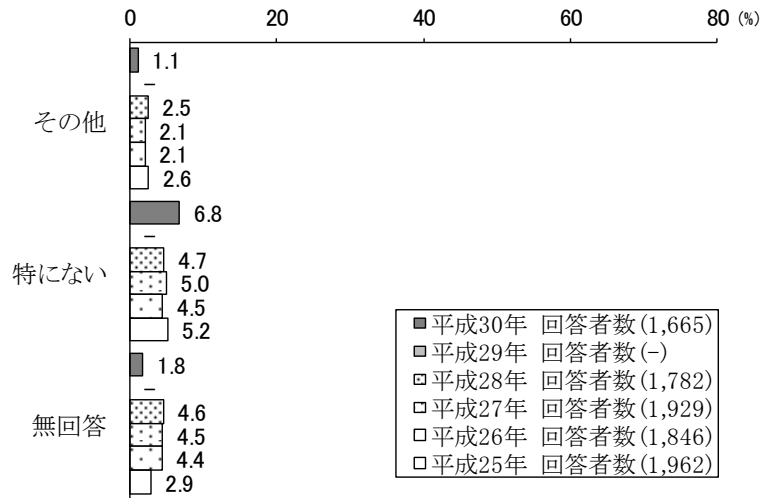


図4-2-1-② 経年比較／必要とする区の情報



※本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

※「財政状況や予算などに関する情報」は、平成26年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が58.9%で最も高く、ほぼ同率で「災害や気象に関する情報」(58.8%)が次点に入る。以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(50.9%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(43.5%)の順で続いている。

経年でみると、上位項目について、順位、比率に大きな変動はみられない。

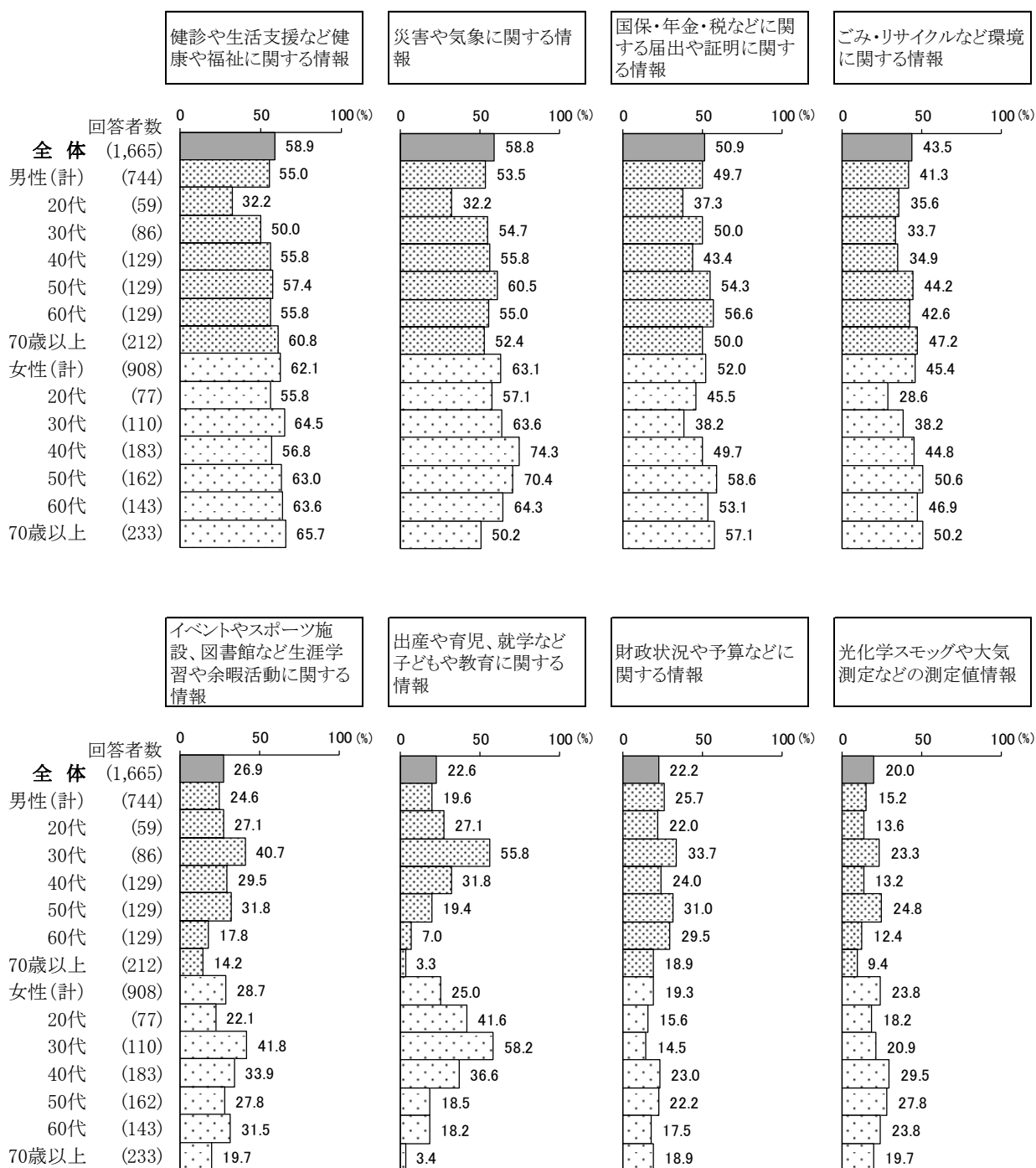
第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「災害や気象に関する情報」は男性53.5%、女性63.1%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が70歳以上で60.8%と最も高くなっている。また、「災害や気象に関する情報」が50代で6割を超えて他の年代より高くなっている。

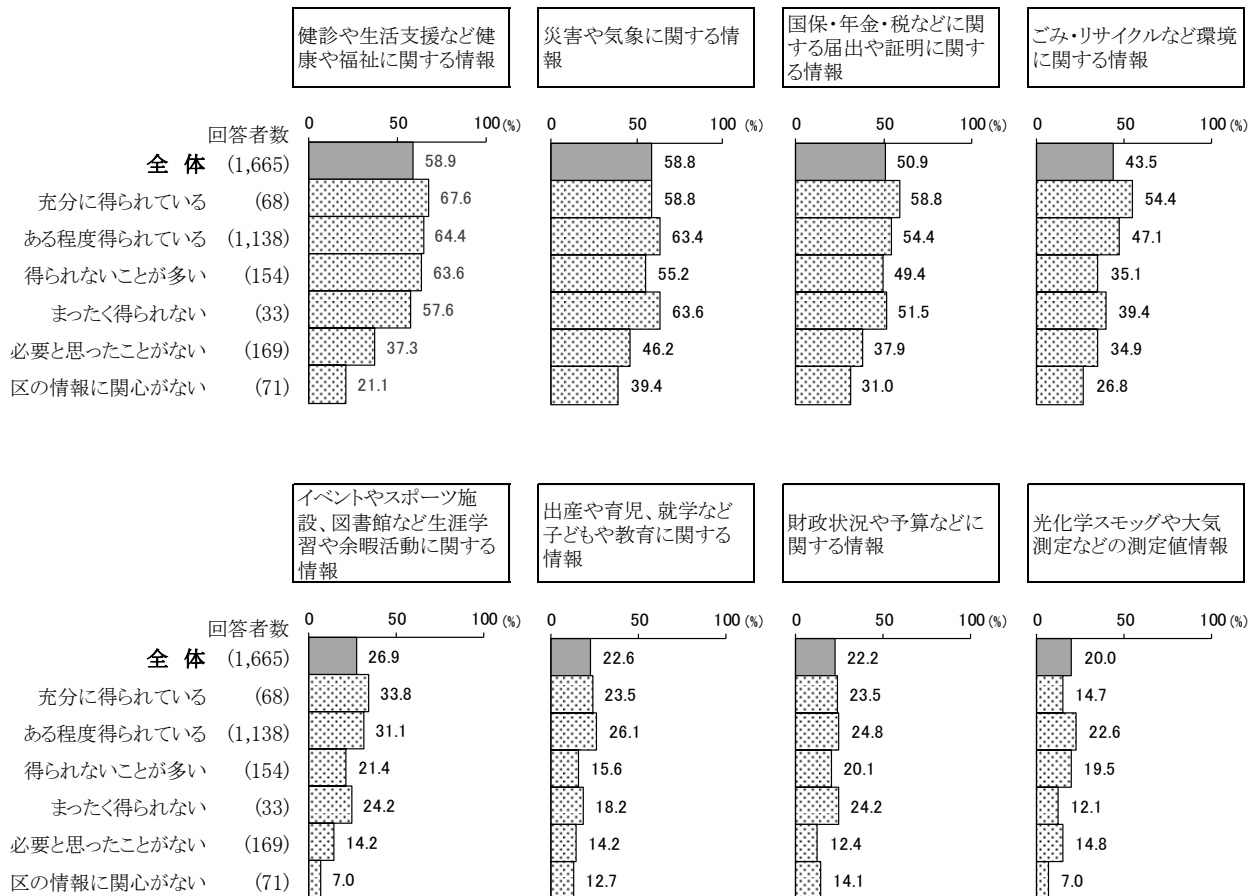
女性では、「災害や気象に関する情報」が40代と50代で7割を超えて高く、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が50代で6割弱と高くなっている。なお、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は男女ともに30代で5割台半ばから6割弱に達して、ともに他の年代に比べ高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／必要とする区の情報／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別でみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「災害や気象に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」では、〈十分に得られている〉から〈まったく得られない〉の4層すべてで、全体と比べてほぼ同等か上回っており、区の情報入手程度による情報の必要性に大きな違いはみられない結果となっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／必要とする区の情報／上位8項目

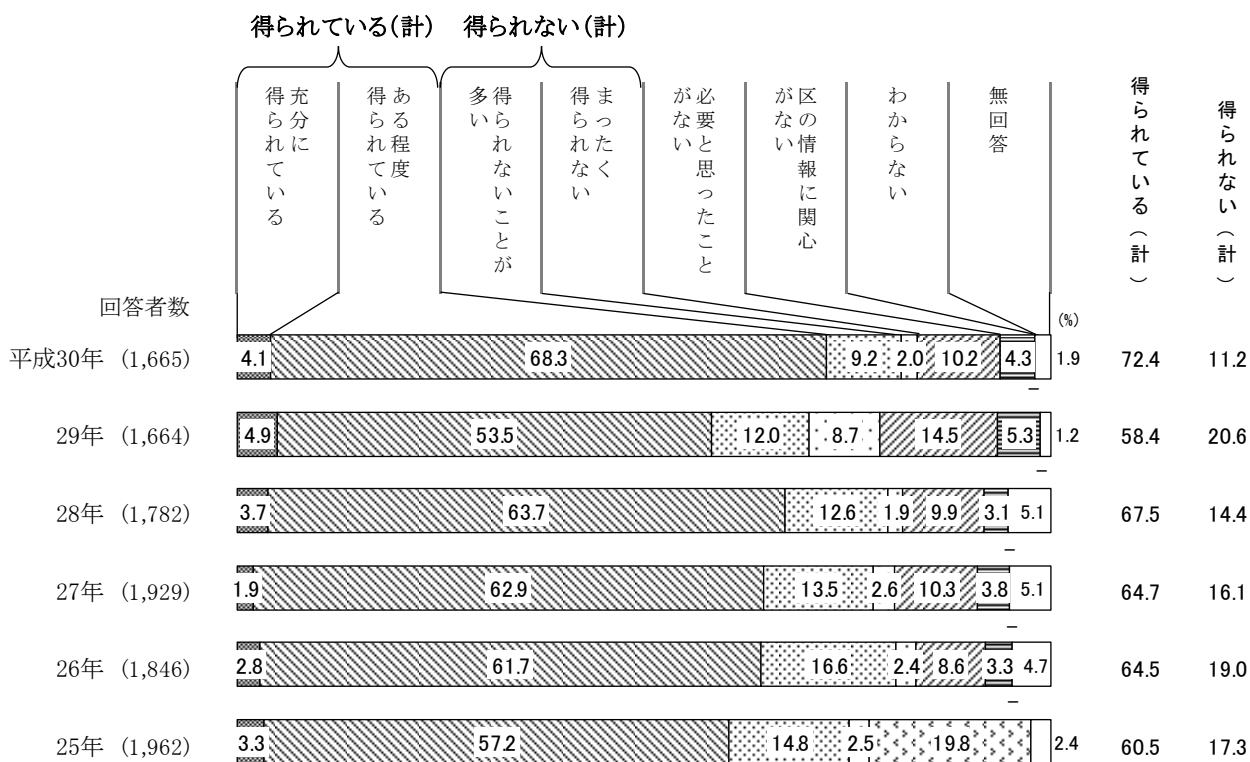


(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

■ 必要なときに【得られている】は7割強

問16 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



- ※ 「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、平成26年度新設。
- ※ 「わからない」は、平成26年度から削除。
- ※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

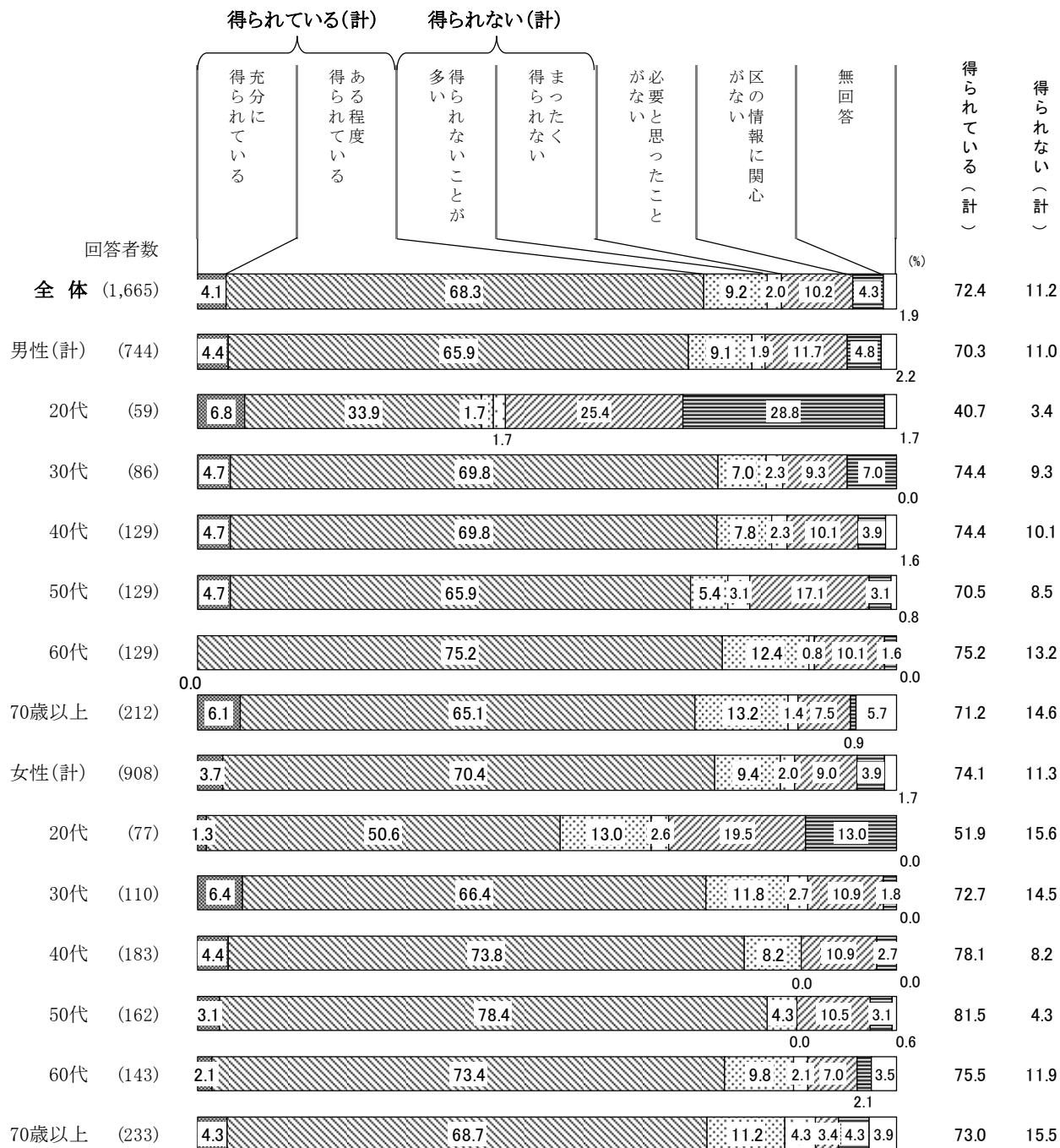
必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が4.1%で、これに「ある程度得られている」の68.3%を合わせた【得られている】は72.4%となっている。一方、「得られないことが多い」は9.2%、「まったく得られない」は2.0%となっている。

平成25年から平成28年の4年間と今回の調査の結果を経年でみると、【得られている】は平成25年の60.5%から増加する傾向にある。

性別でみると、【得られている】は男性70.3%、女性74.1%となっている。

性・年代別でみると、【得られている】は、男性では60代で、女性では50代で、それぞれ最も高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報の入手状況

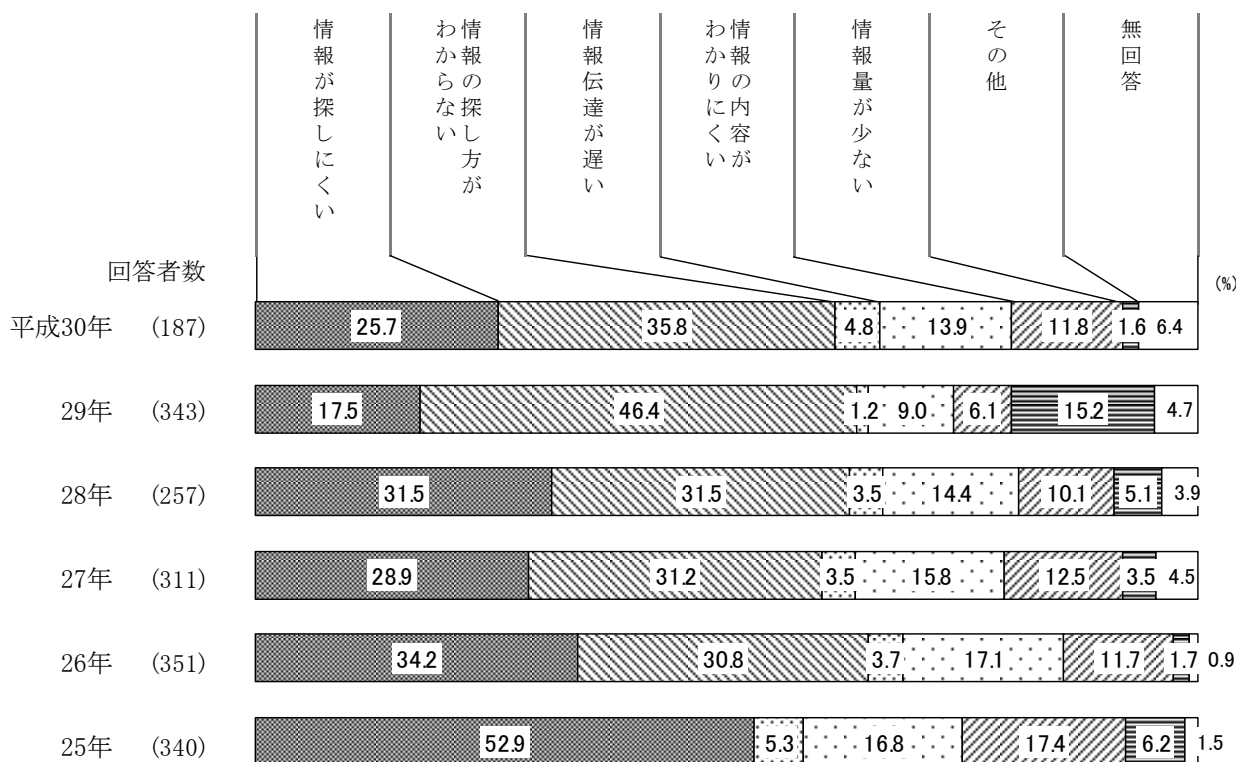


(4) 区の情報得られない理由

■ “探し方がわからない”が、平成28年以前に比して増加

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問16-1 主にどのような理由からですか（〇は1つだけ）。

図4-4-1 経年比較/区の情報得られない理由



※「情報の探し方がわからない」は、平成26年度新設。

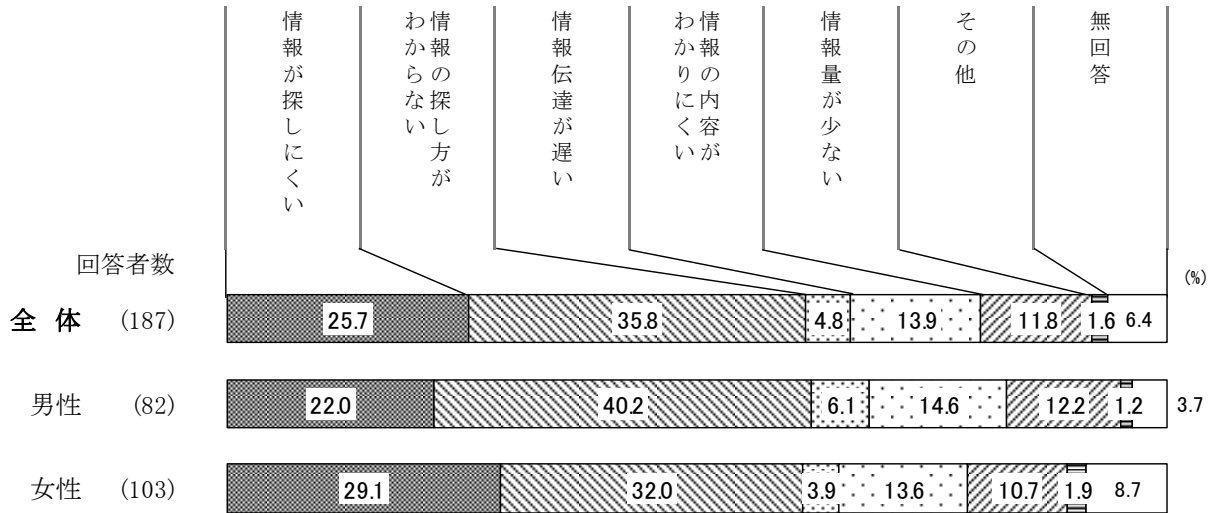
※平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

区の情報【得られない】という人に、その理由を聞いたところ、「情報の探し方がわからない」が35.8%と最も多く、次いで「情報が探しにくい」が25.7%となっている。

平成26年から平成28年の3年間と今回の調査の結果を経年でみると、平成26年から平成28年までは「情報が探しにくい」と「情報の探し方がわからない」の上位2項目がそれぞれ3割前後で拮抗していたが、今回の調査では「情報の探し方がわからない」が3割台半ばに増加し、「情報が探しにくい」が2割台半ばに減少して、両者の割合に開きが見られる結果となっている。

性別で見ると、「情報が探しにくい」は男性22.0%、女性29.1%と女性の方が高くなっているが、「情報の探し方がわからない」は男性40.2%、女性32.0%で男性の方が高くなっている。

図4-4-2 性別／区の情報が見られない理由



(5) 区の情報得られない理由の詳細

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に
問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報 (45名の回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	19
関心がないから	7
内容が少ない、薄いから	6
その他	14

区ホームページ (35名の回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	11
情報が不足しているから	7
パソコンを使わない、使えないから	6
見ない、あまり見ないから	5
インターネットを使用できる環境がないから、インターネットは使わない	4
その他	4

その他 (21名の回答)	件数
情報をみつけられない、入手方法がわからないから	7
見ていない、聞こえない	3
パソコン、スマートフォン等を持っていない	3
その他	10

5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (7) がん検診制度の感想
-

5. 健康

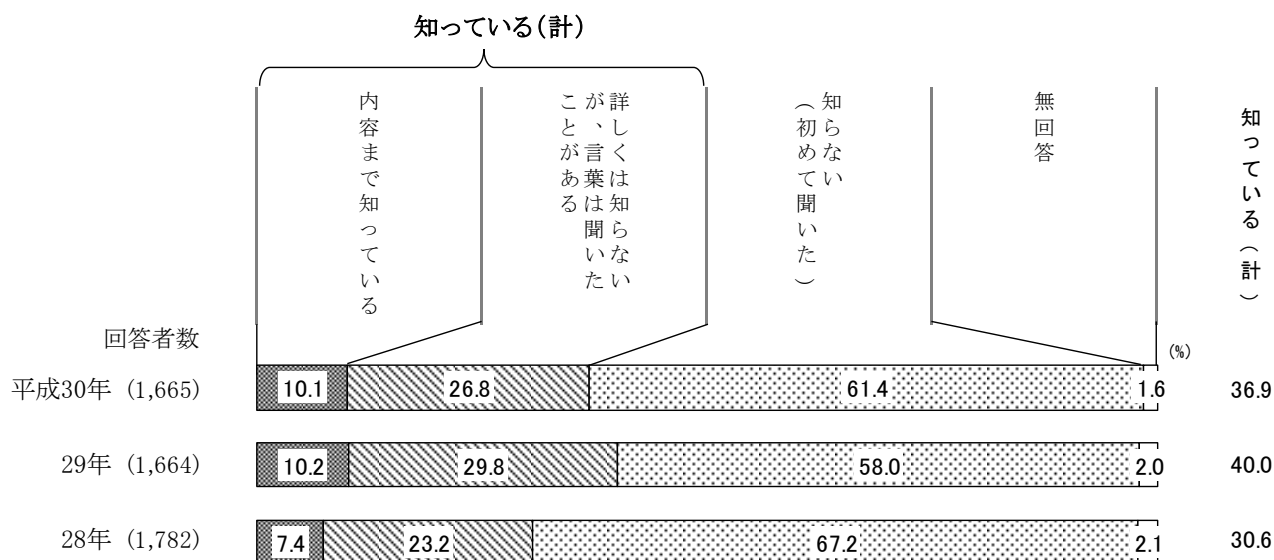
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

■ 【知っている】は4割弱

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況



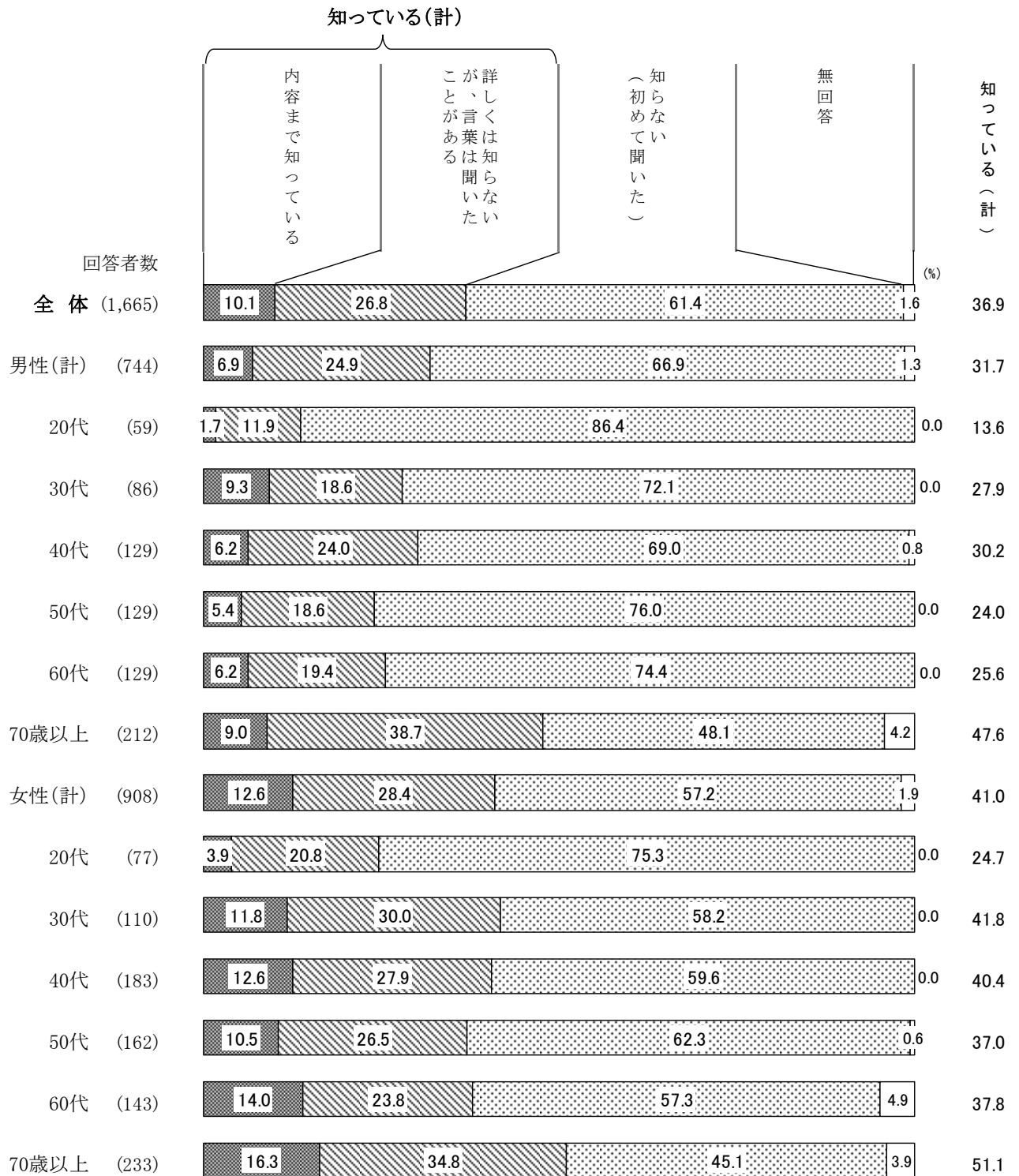
『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は10.1%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.8%)を合わせた【知っている】は36.9%となっている。一方、「知らない」は61.4%となっている。

経年でみると、【知っている】は、平成29年の40.0%から今回36.9%へと3.1ポイント減少しているが、平成28年と比較すると6.3ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別で見ると、【知っている】は女性で41.0%と、男性（31.7%）を上回っている。
 性・年代別で見ると、男性では、70歳以上で【知っている】が47.6%と5割弱を占めて高い。
 女性でも、70歳以上で【知っている】が51.1%と5割を超えて高くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」と「足の壊疽(えそ)」がともに6割台で上位

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。

図5-2-1-① 経年比較/糖尿病の進行による病気や障がいの認識

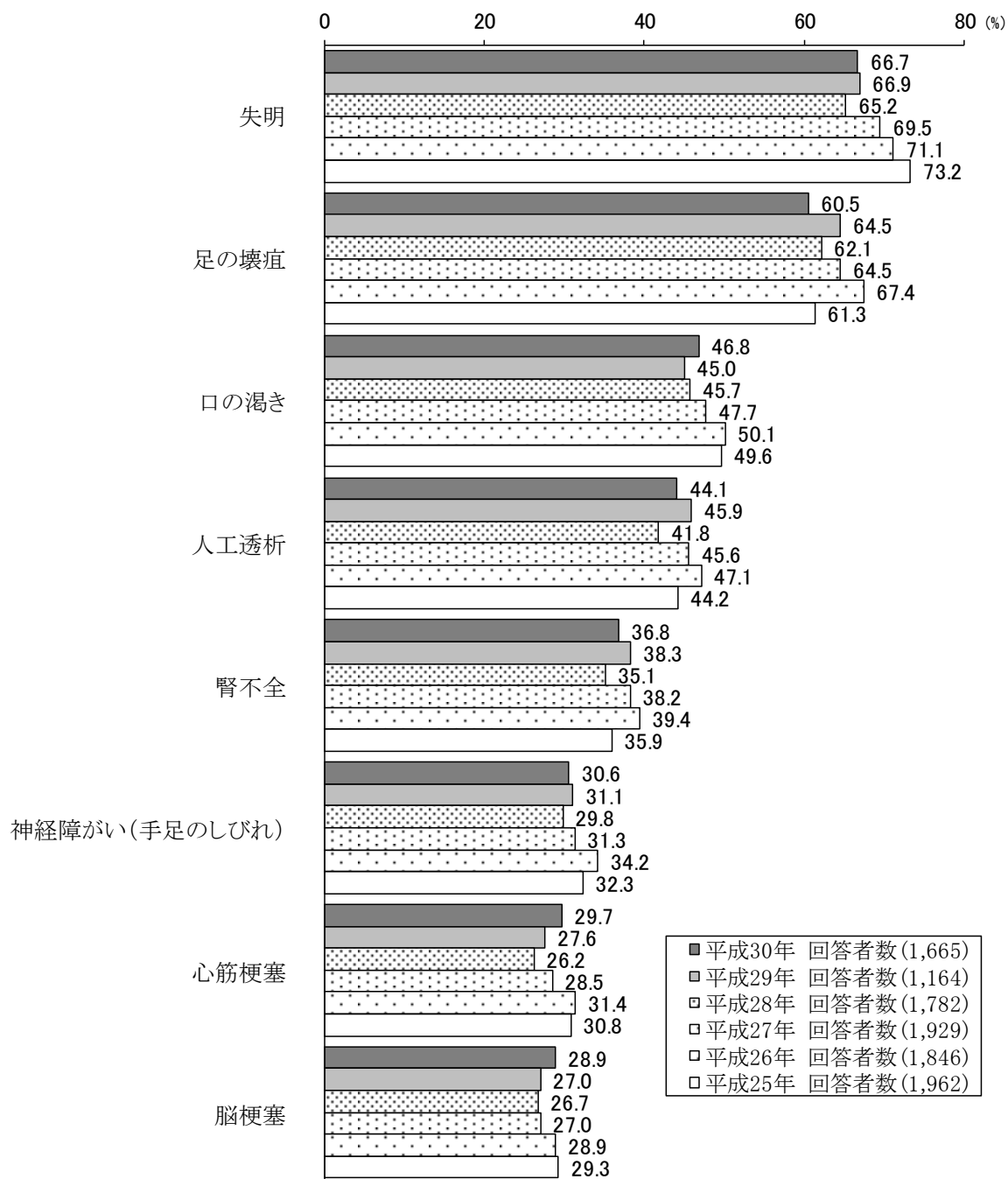
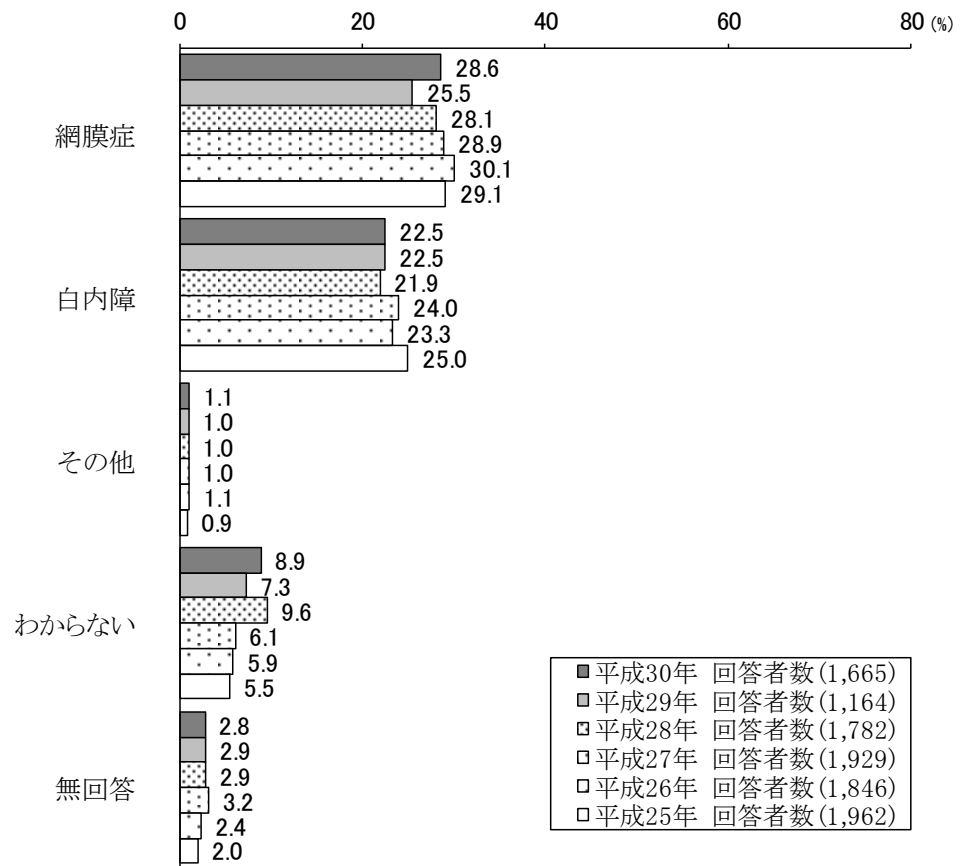


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

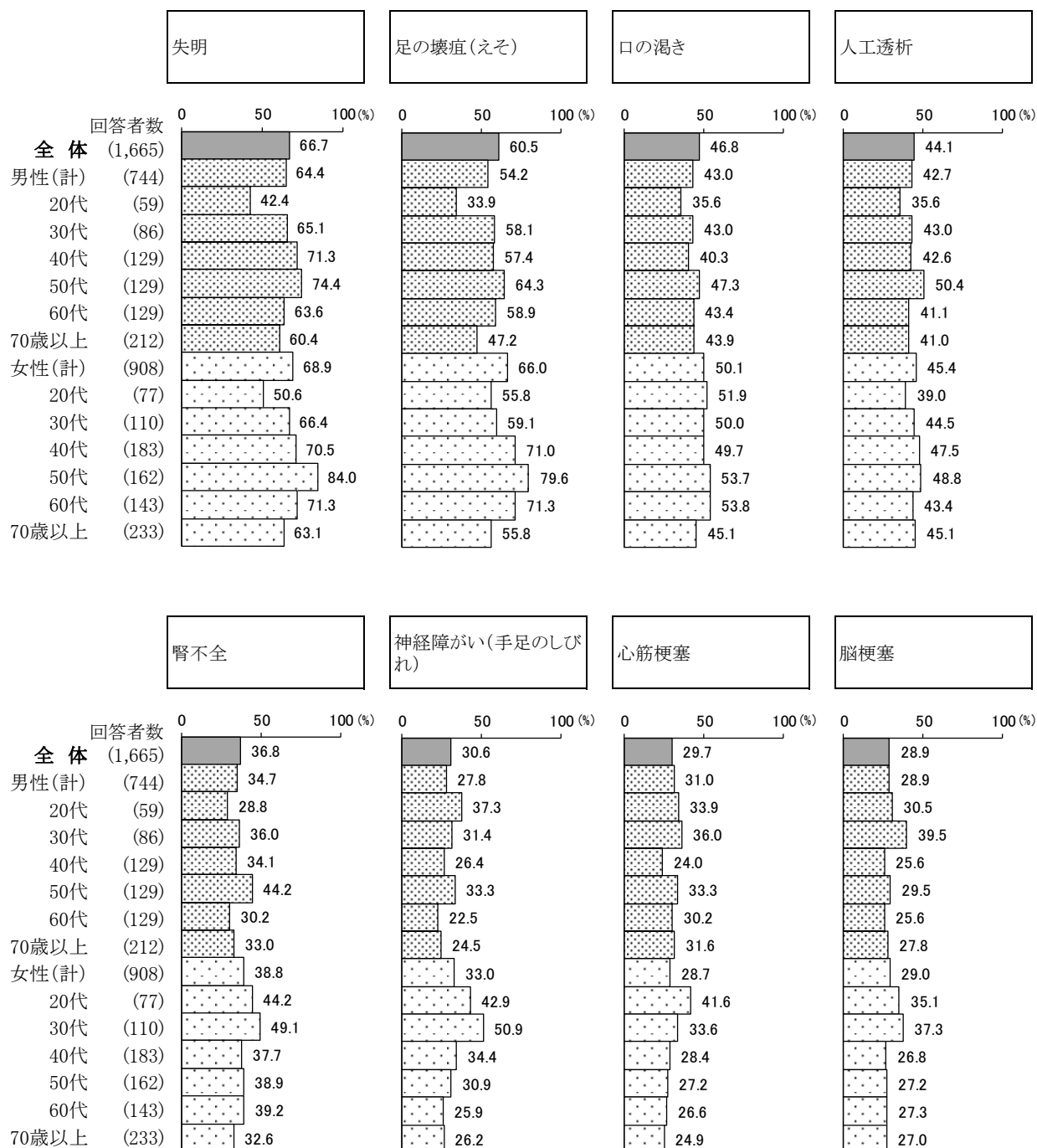


糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が66.7%で最も高く、以下「足の壊疽（えそ）」(60.5%)、「口の渇き」(46.8%)、「人工透析」(44.1%)の順となっている。

経年でみると、数値に変化はあるものの、上位項目に大きな順位の変動はみられない。

性別でみると、女性では「足の壊疽（えそ）」が66.0%と、男性（54.2%）を上回っている。
 性・年代別でみると、男性では、50代で「失明」と「足の壊疽（えそ）」がそれぞれ74.4%、64.3%と他の年代に比べて高くなっている。
 女性でも、50代で「失明」と「足の壊疽（えそ）」がそれぞれ84.0%、79.6%と高くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



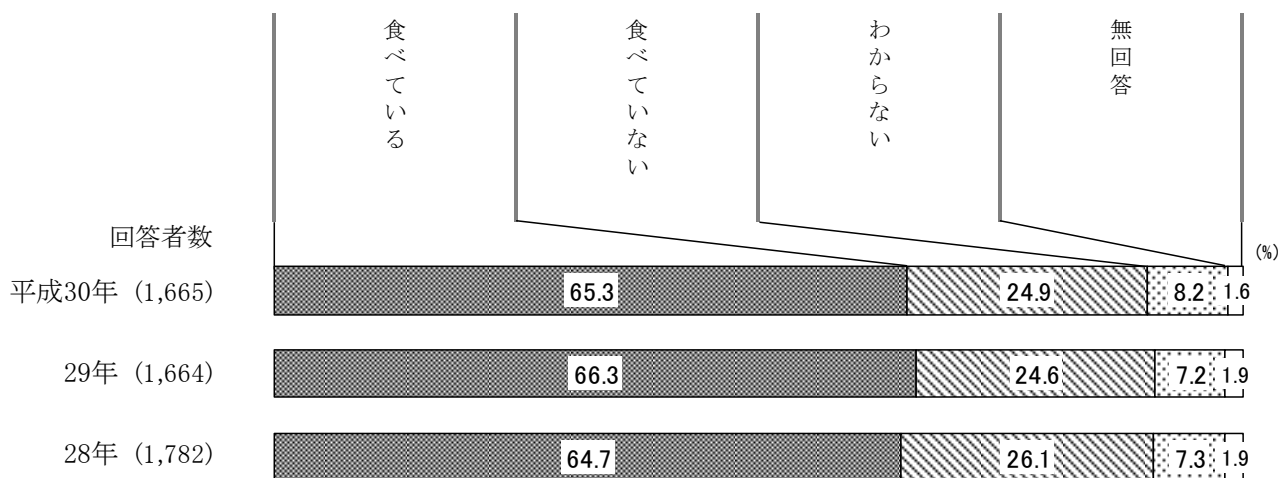
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

■ 「食べている」が6割台半ば

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

図5-3-1 経年比較/野菜から食べ始めることの実践状況

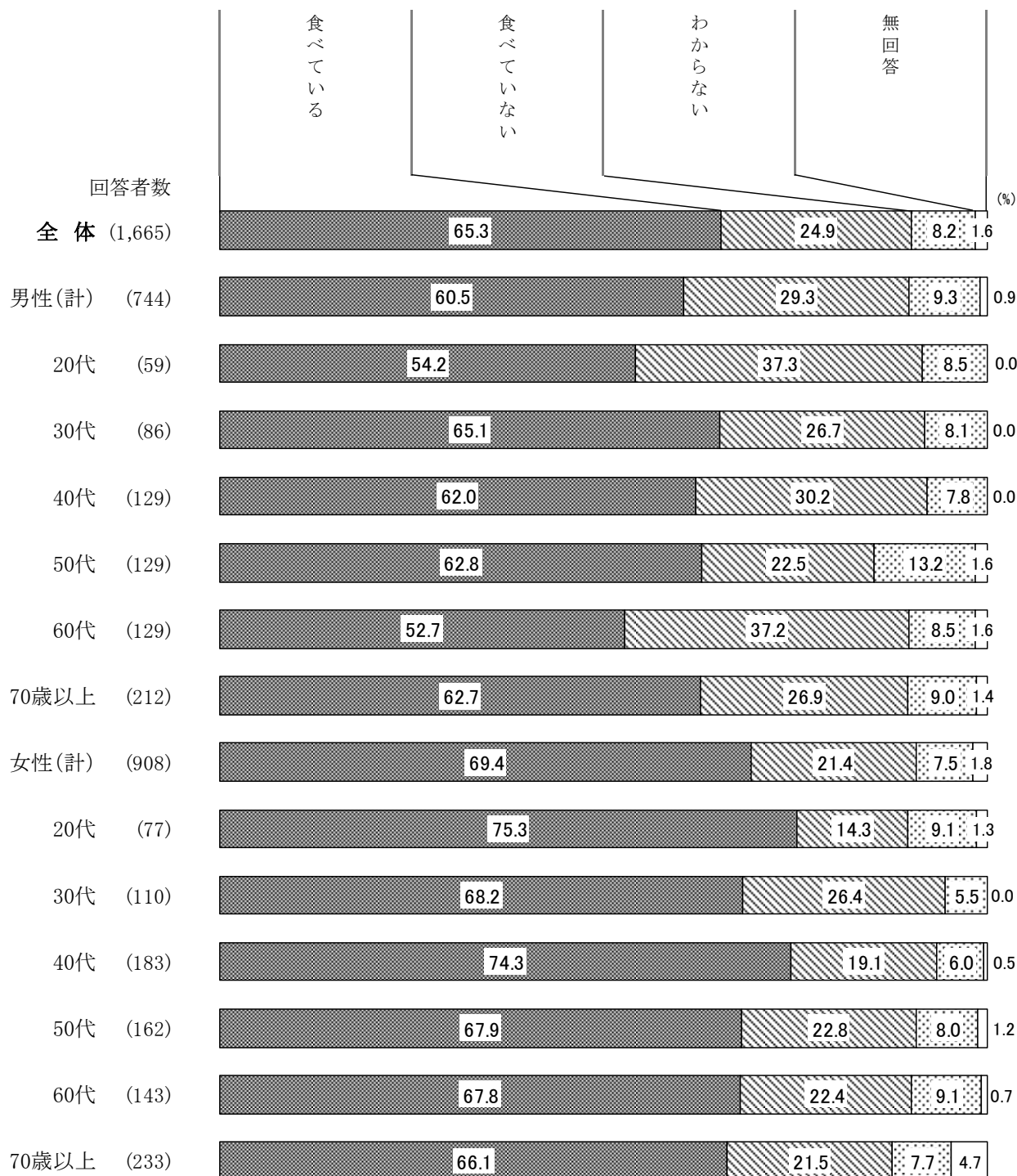


野菜から「食べている」は65.3%を占めている。一方、「食べていない」は24.9%となっている。

経年でみると、いずれの選択肢も比率に大きな変化はみられない。

性別で見ると、女性では「食べている」が69.4%と、男性（60.5%）を上回っている。
 性・年代別で見ると、男性では、20代と60代で「食べていない」が4割弱と高くなっている。
 女性では、20代と40代で「食べている」が7割台半ばと高くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

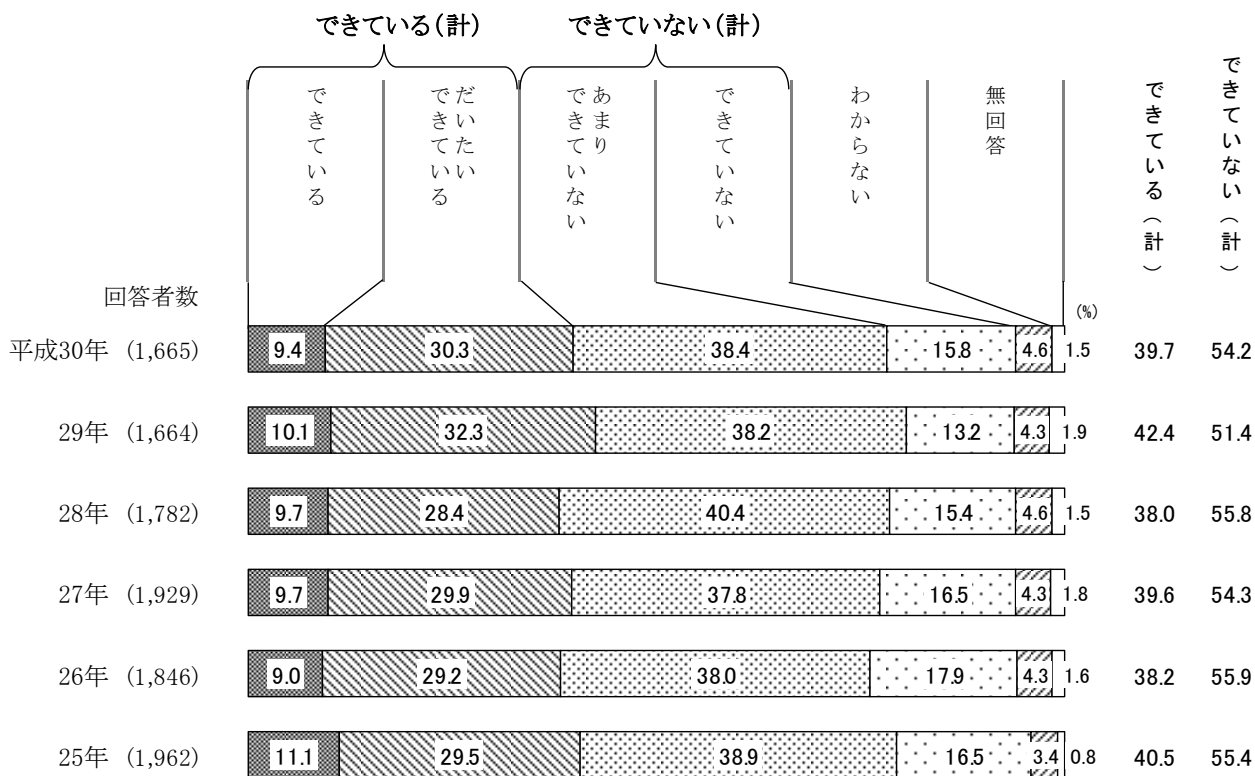


(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できている】人は約4割で、【できていない】人が5割台半ば

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。
 ※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

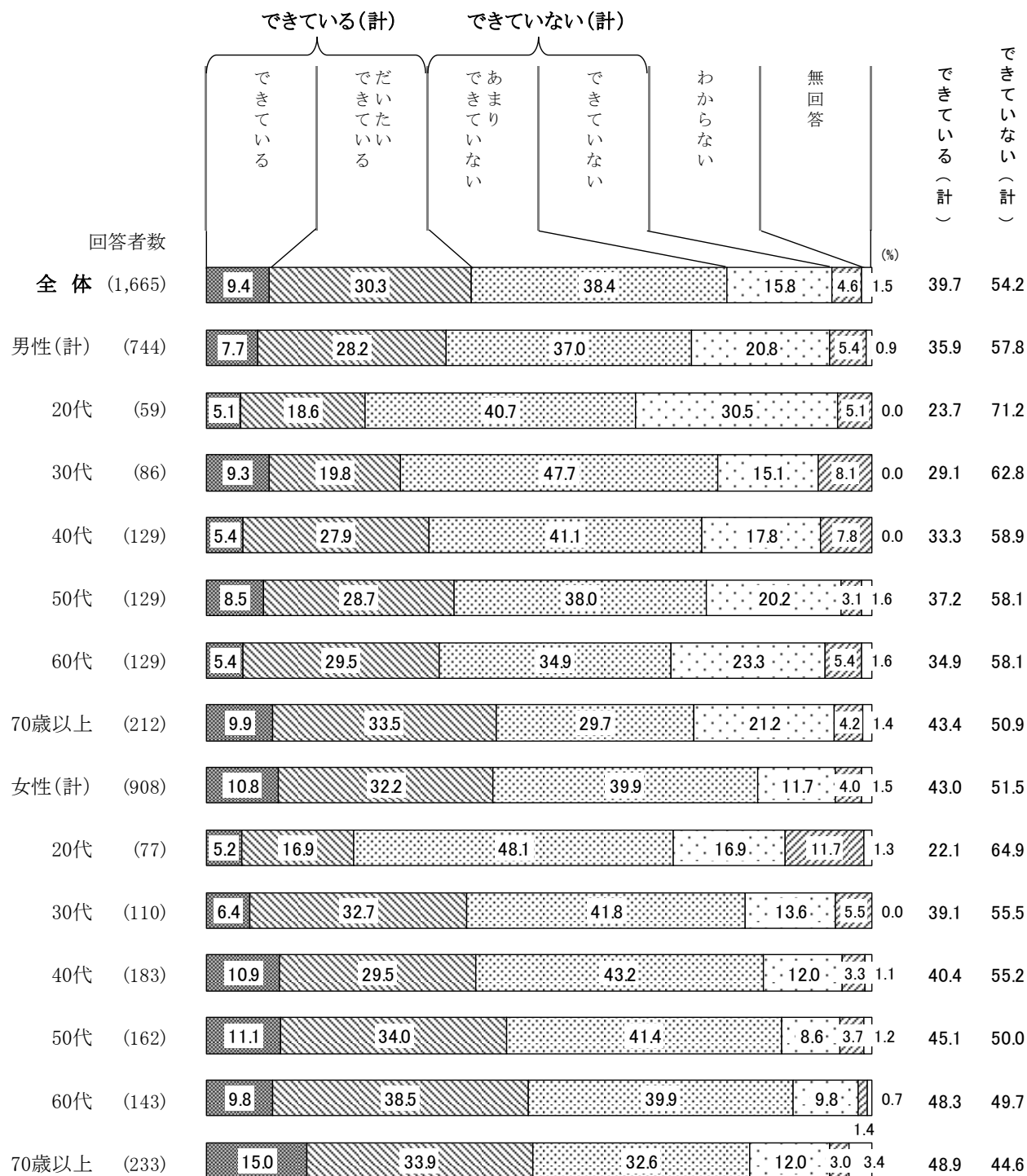


毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.4%で、これに「だいたいできている」の30.3%を合わせた【できている】は39.7%となっている。一方、「あまりできていない」(38.4%)と「できていない」(15.8%)を合わせた【できていない】は54.2%となっている。

経年でみると、【できている】は、平成29年にやや増加したものの、平成25年以降4割前後と大きな変化はみられない。

性別でみると、【できている】は、女性が43.0%と男性（35.9%）を上回っている。
 性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【できている】が4割強と高くなっている。
 女性では、年代が高くなるほど【できている】が増加する傾向がみられ、60代と70歳以上ではともに5割弱に達している。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

■ 〈現在の健康状態は良い〉という人は7割強

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください。
 (〇はそれぞれ1つずつ)

図5-5-1-① 経年比較/体調や習慣

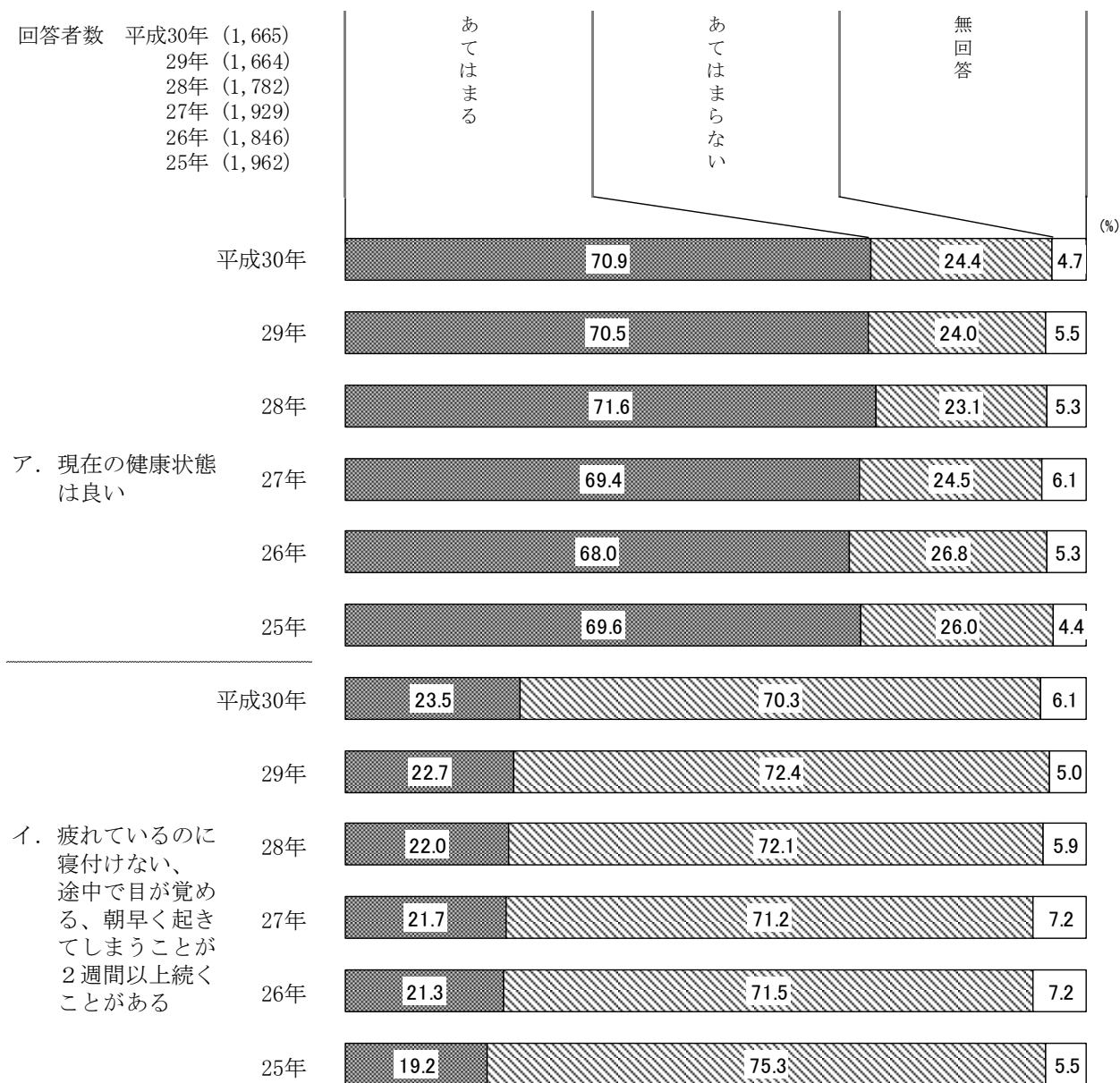
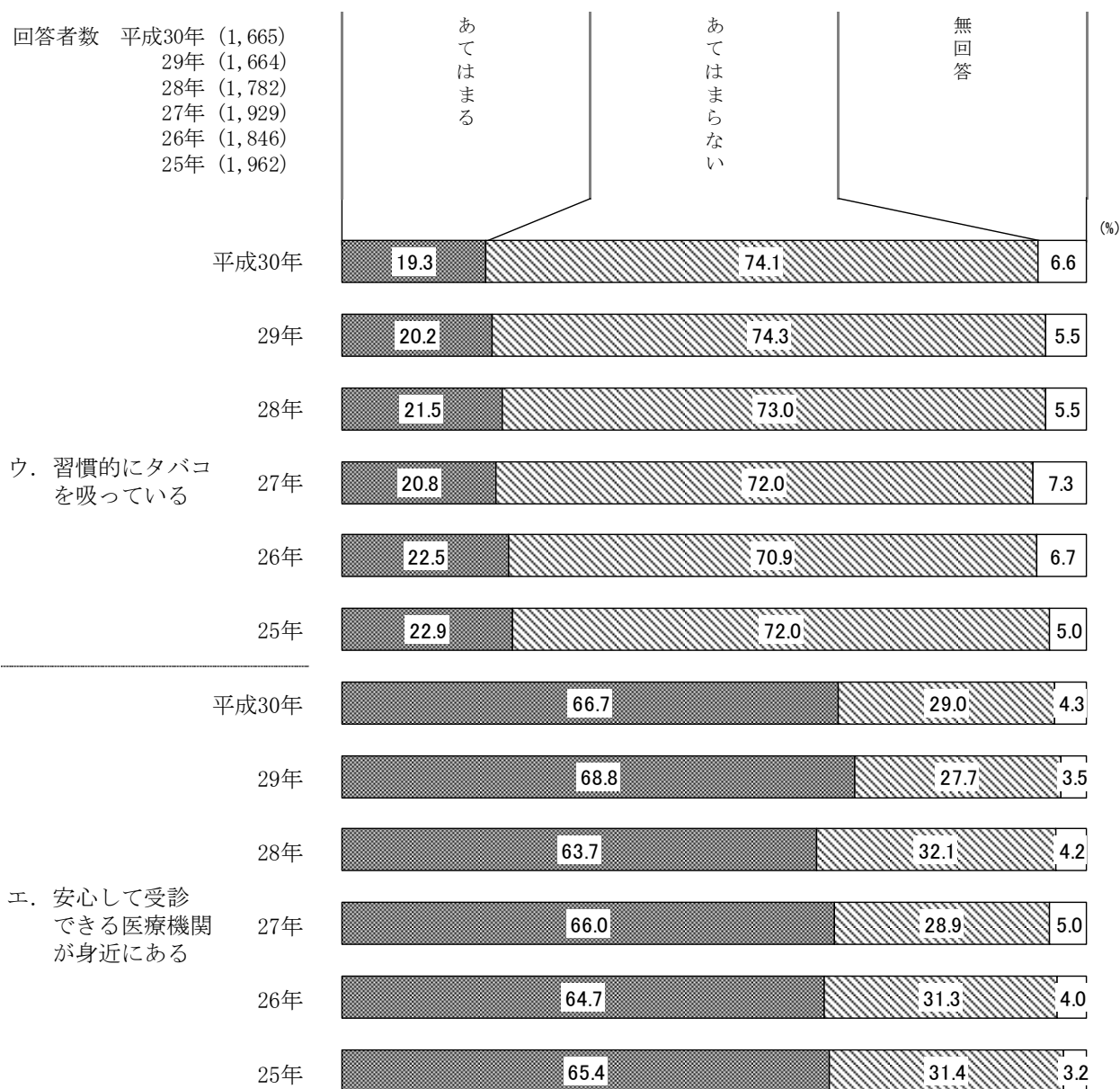


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



体調や習慣について、「あてはまる」の高い順にみると、〈現在の健康状態は良い〉(70.9%)と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(66.7%)が7割前後で上位となっている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉と〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」がそれぞれ23.5%、19.3%となっており、ともに「あてはまらない」が7割超を占めて多くなっている。

経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられない。

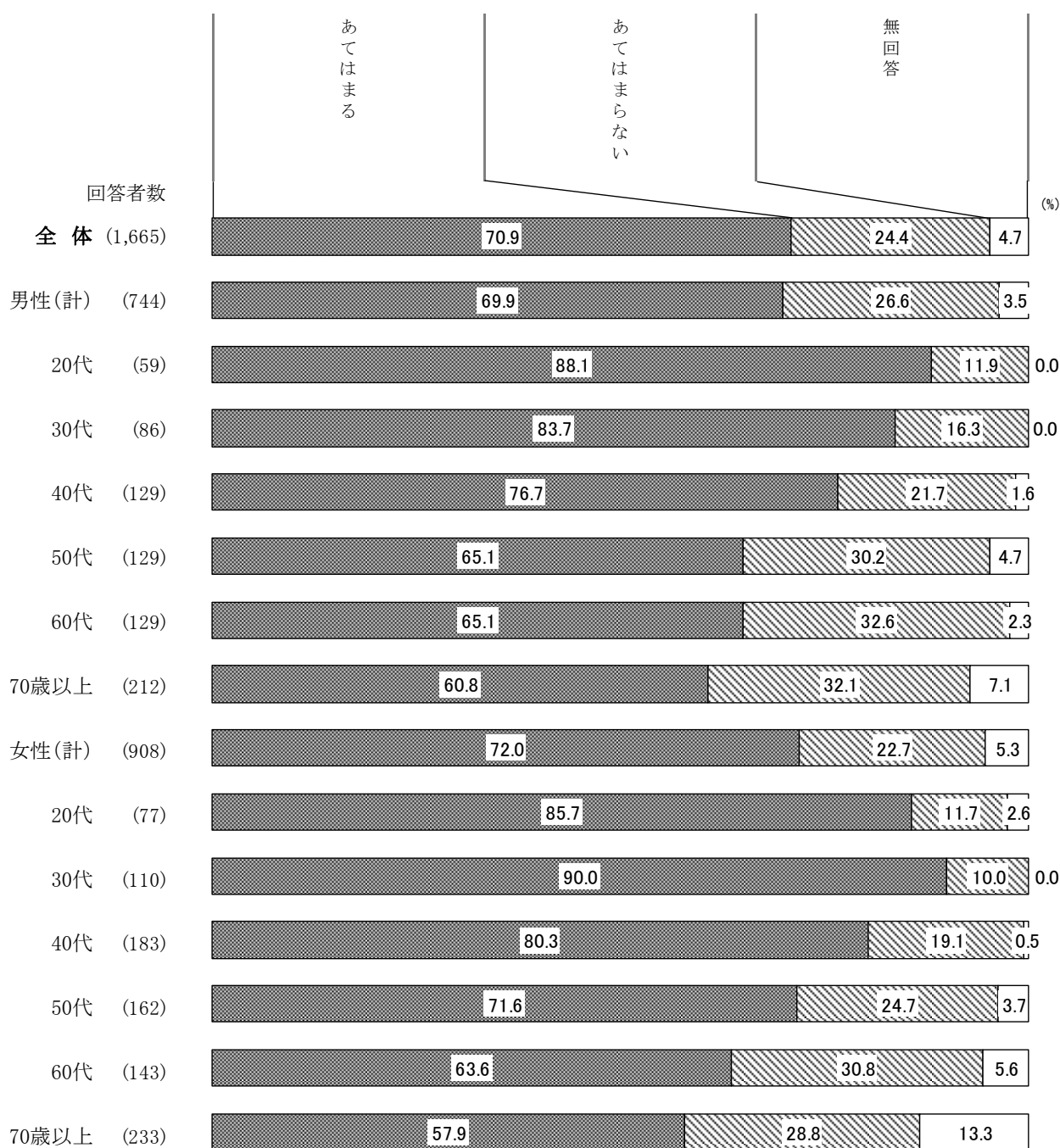
第3章 調査結果の分析〈健康〉

〈現在の健康状態は良い〉については、性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、男性では、20代と30代では「あてはまる」がそれぞれ8割台となっているが、40代以降では年代が上がるにつれて割合が低下している。

女性では、20代から40代では「あてはまる」が8割から9割に達しているものの、50代以降では年代が上がるにつれて割合が低下し、70歳以上では57.9%となっている。

図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／現在の健康状態は良い

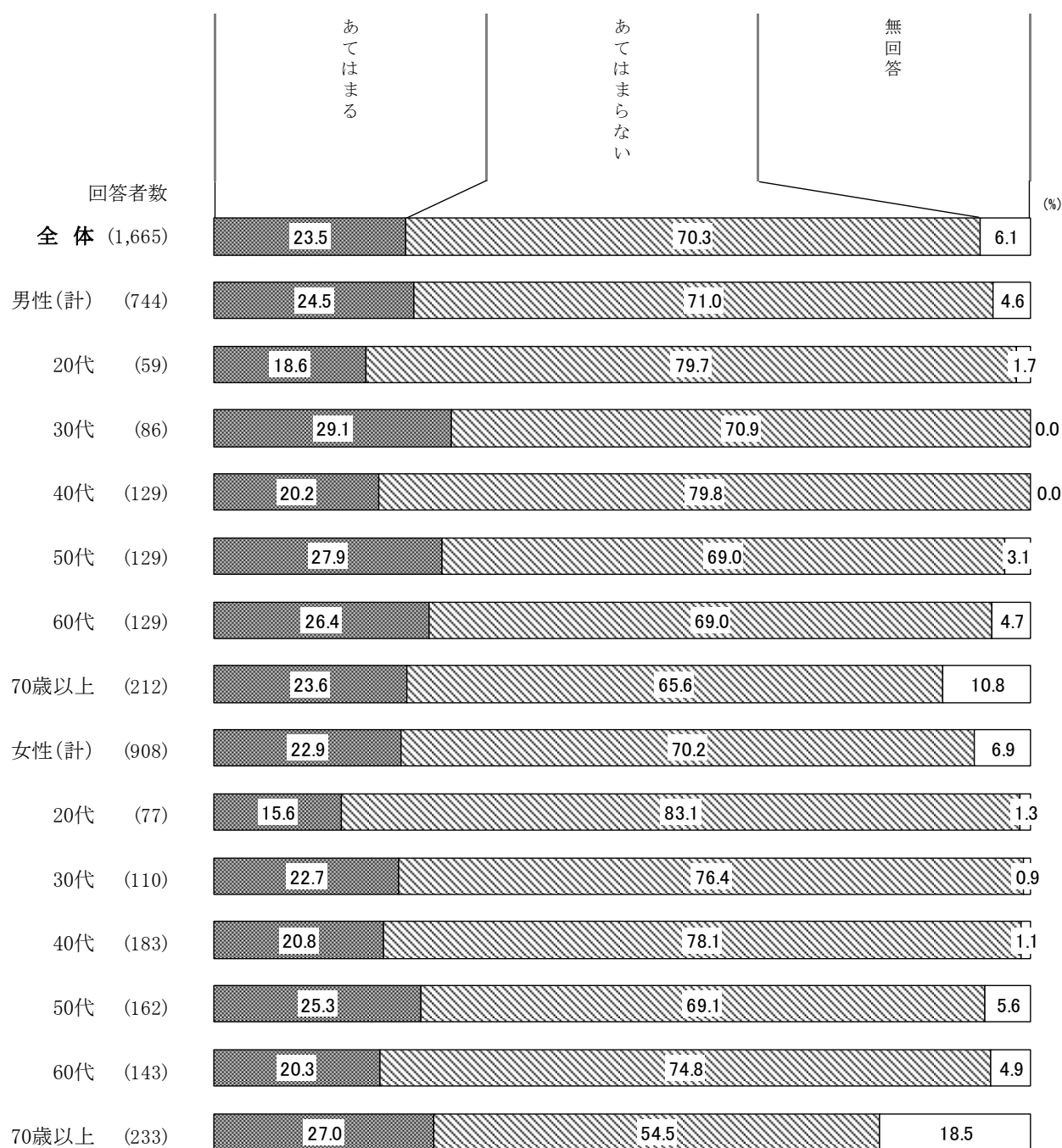


〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別でみると、「あてはまる」は男女で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代と50代で「あてはまる」が3割弱と他の年代よりやや高くなっている。

女性では、50代と70歳以上で「あてはまる」が2割台半ばと他の年代よりやや高くなっている。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣
／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



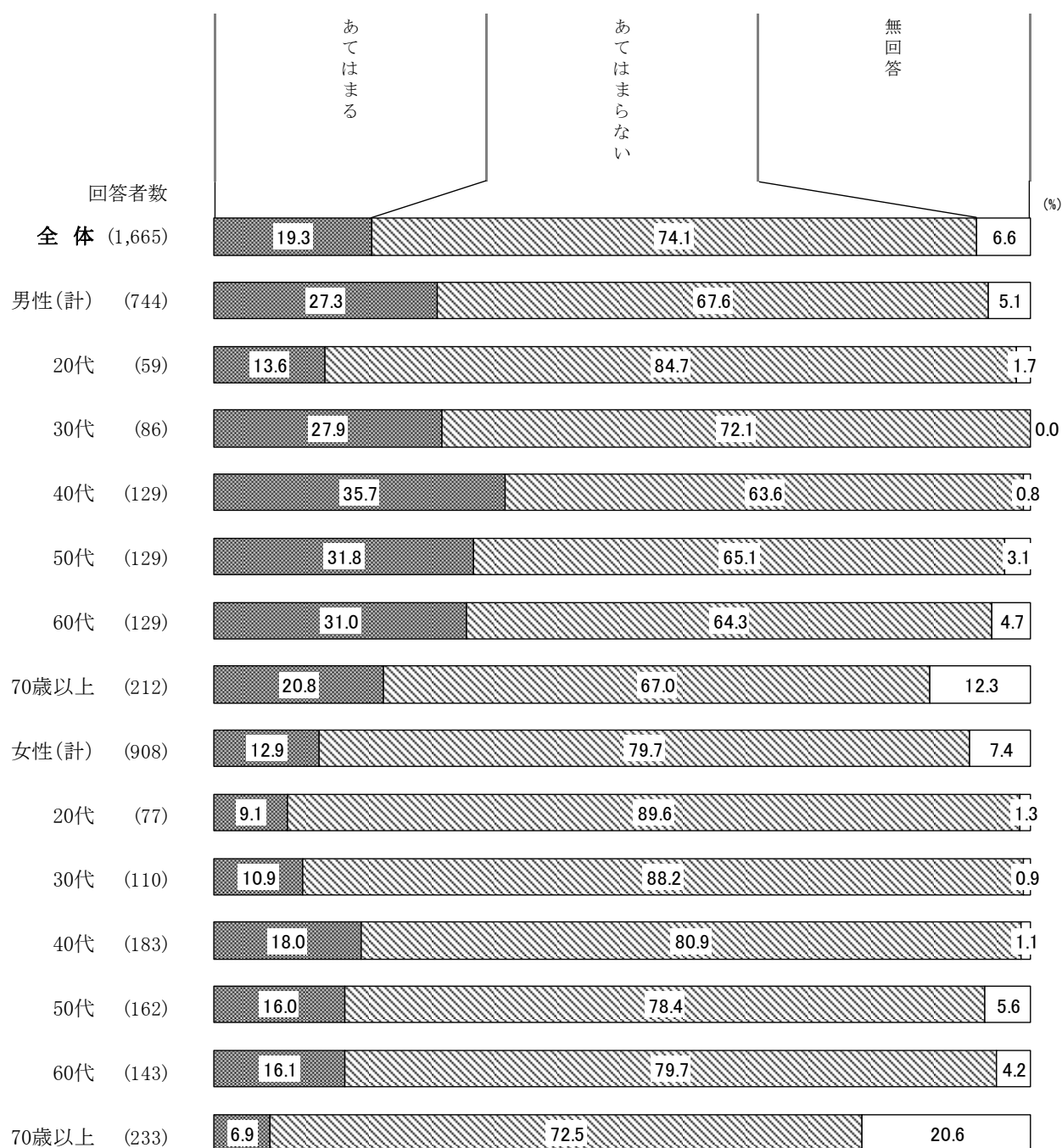
第3章 調査結果の分析〈健康〉

〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性27.3%、女性12.9%と男性で高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では、40代から60代にかけて「あてはまる」が3割強から3割台半ばとやや高くなっている。

女性では、40代から60代の3年代層で「あてはまる」が1割台半ばから1割台後半と他の年代より高くなっている。

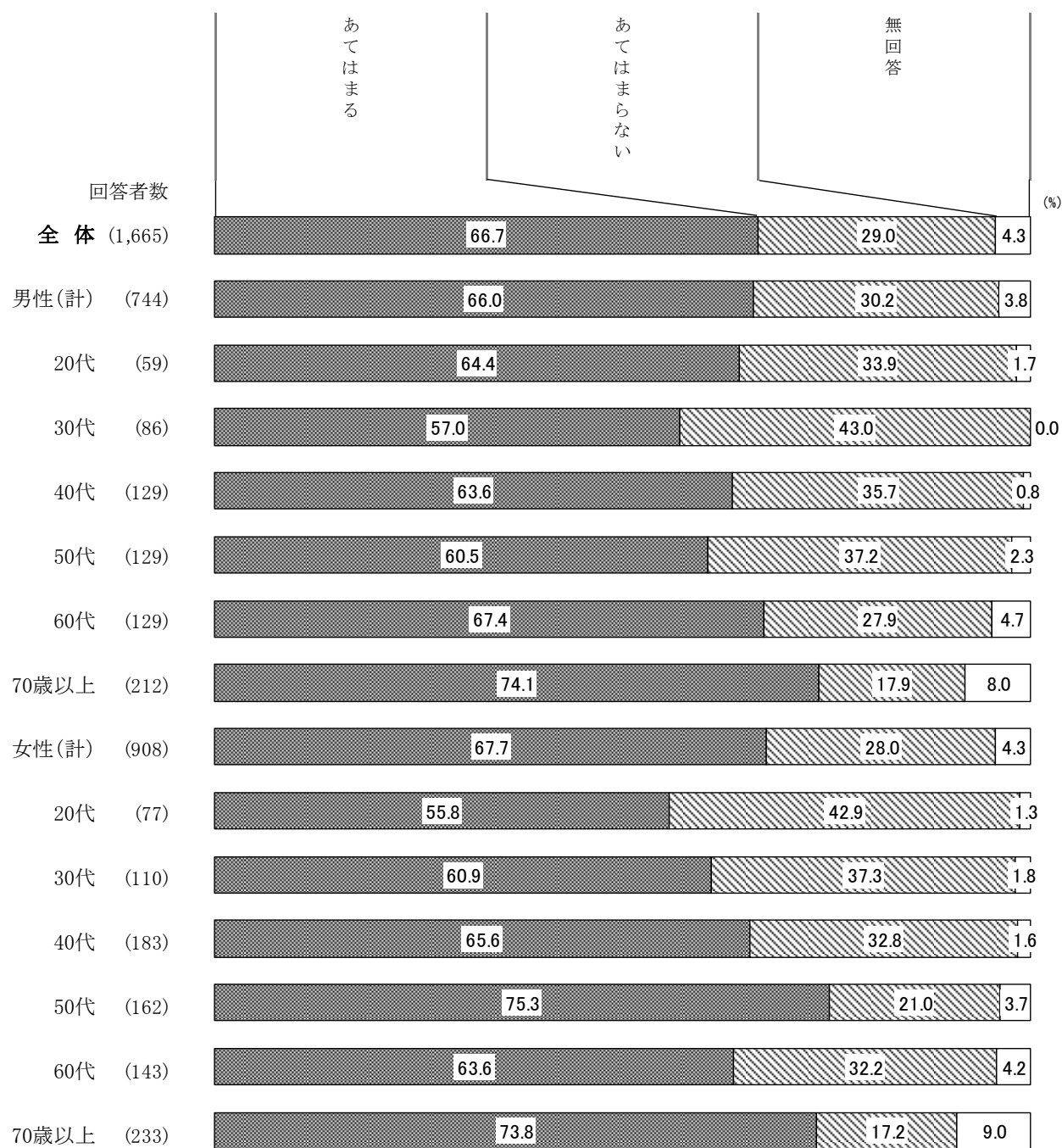
図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている



〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では70歳以上で、女性では50代と70歳以上で、それぞれ7割台半ばと高くなっている。

図5-5-2-④ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある



(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎日朝ごはんを食べている」と「毎年健康診断を受けている」がともに6割台半ばで上位

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

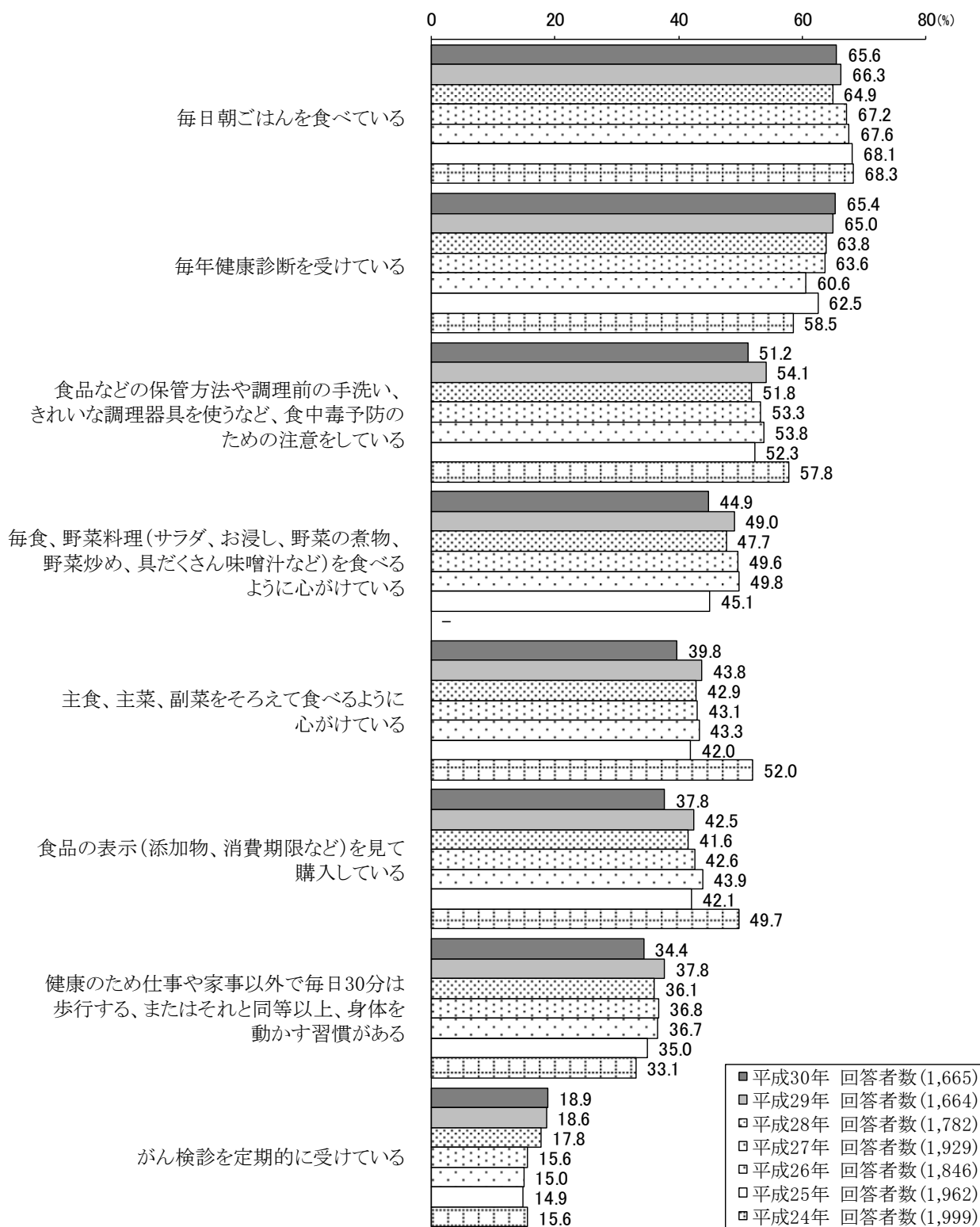
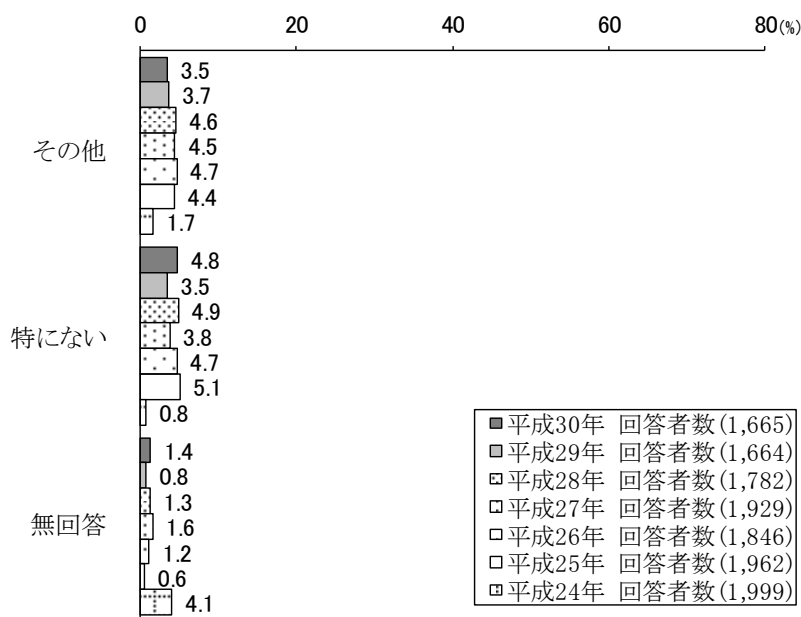


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は、平成25年度新設。
 ※「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」は、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

健康維持のために心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が65.6%で最も高く、僅差で「毎年健康診断を受けている」(65.4%)が続き、以下「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(51.2%)「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるように心がけている」(44.9%)の順となっている。

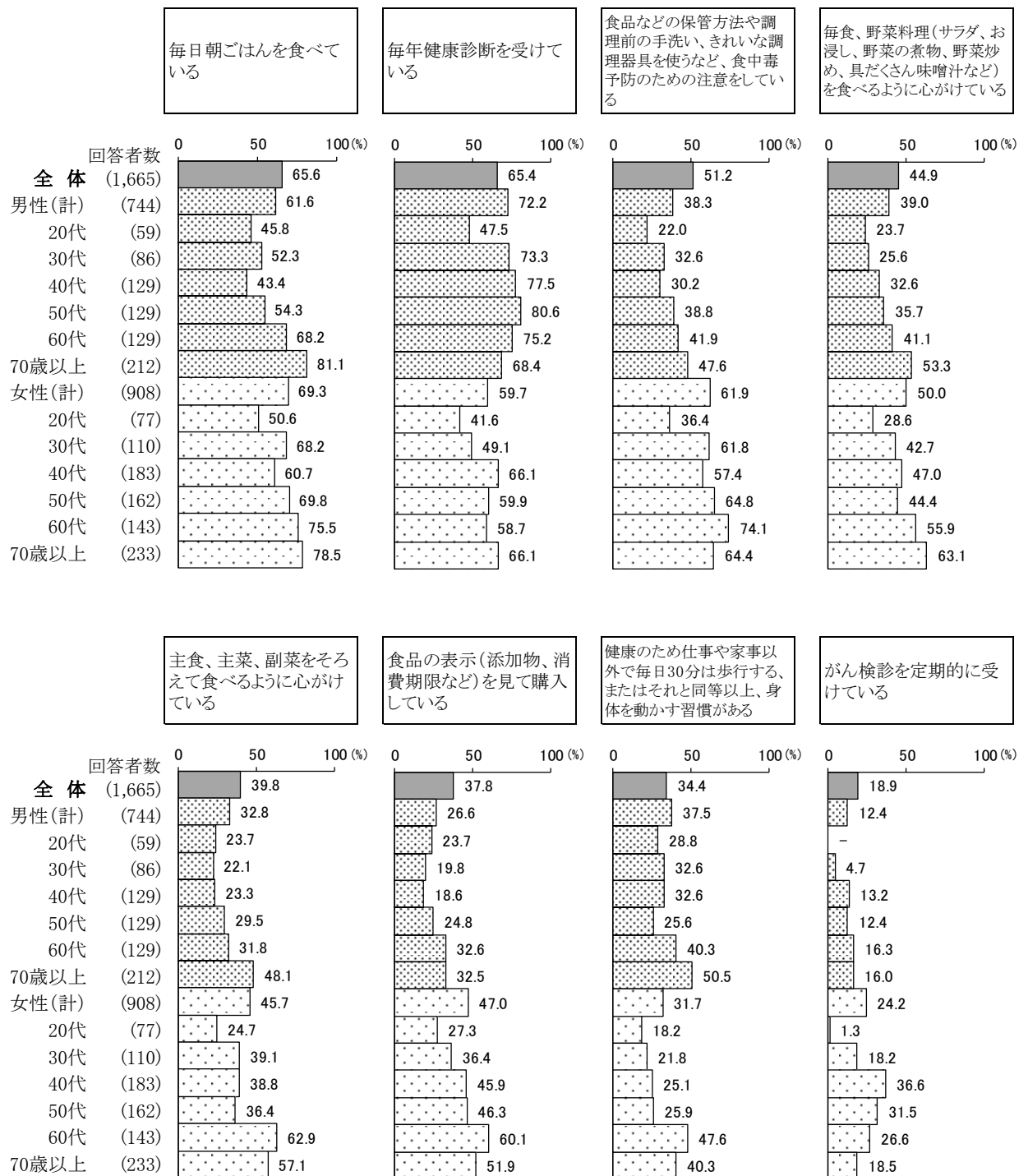
経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

性別でみると、「毎日朝ごはんを食べている」は男性61.6%で女性69.3%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は男性38.3%で女性61.9%、「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるように心がけている」は男性39.0%で女性50.0%と、上位8項目中6項目で男性より女性が高くなっている。一方、「毎年健康診断を受けている」は男性72.2%、女性59.7%と女性より男性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎日朝ごはんを食べている」は70歳以上で、「毎年健康診断を受けている」は40代と50代で、それぞれ8割前後と高くなっている。

女性では、「毎日朝ごはんを食べている」は60代と70歳以上で、「食品などの保管方法や調理前の手洗い、きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」も60代で、それぞれ7割台半ばから8割弱と高くなっており、さらに、70歳以上では「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるように心がけている」も6割強と高くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

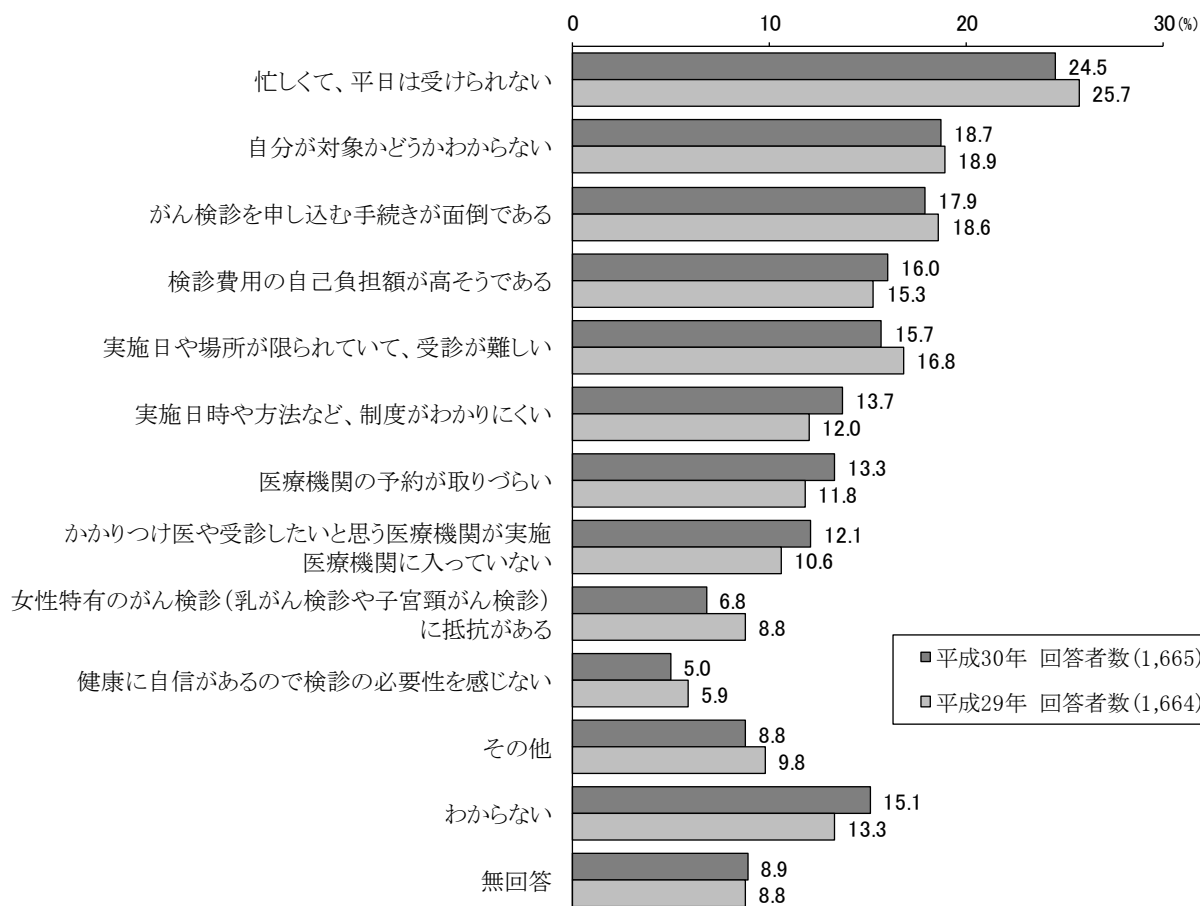


(7) がん検診制度の感想

■ 「忙しくて、平日は受けられない」が最多も、感想は多岐に亘る

問23 足立区では区民向けのがん検診を実施していますが、がん検診の制度について、どのように感じていますか（○はあてはまるものすべて）。

図5-7-1 前回調査比較／がん検診制度の感想



区のがん検診の制度についての意識をみると、「忙しくて、平日は受けられない」が24.5%で最も高く、以下「自分が対象かどうかわからない」(18.7%)、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」(17.9%)の順で続いている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

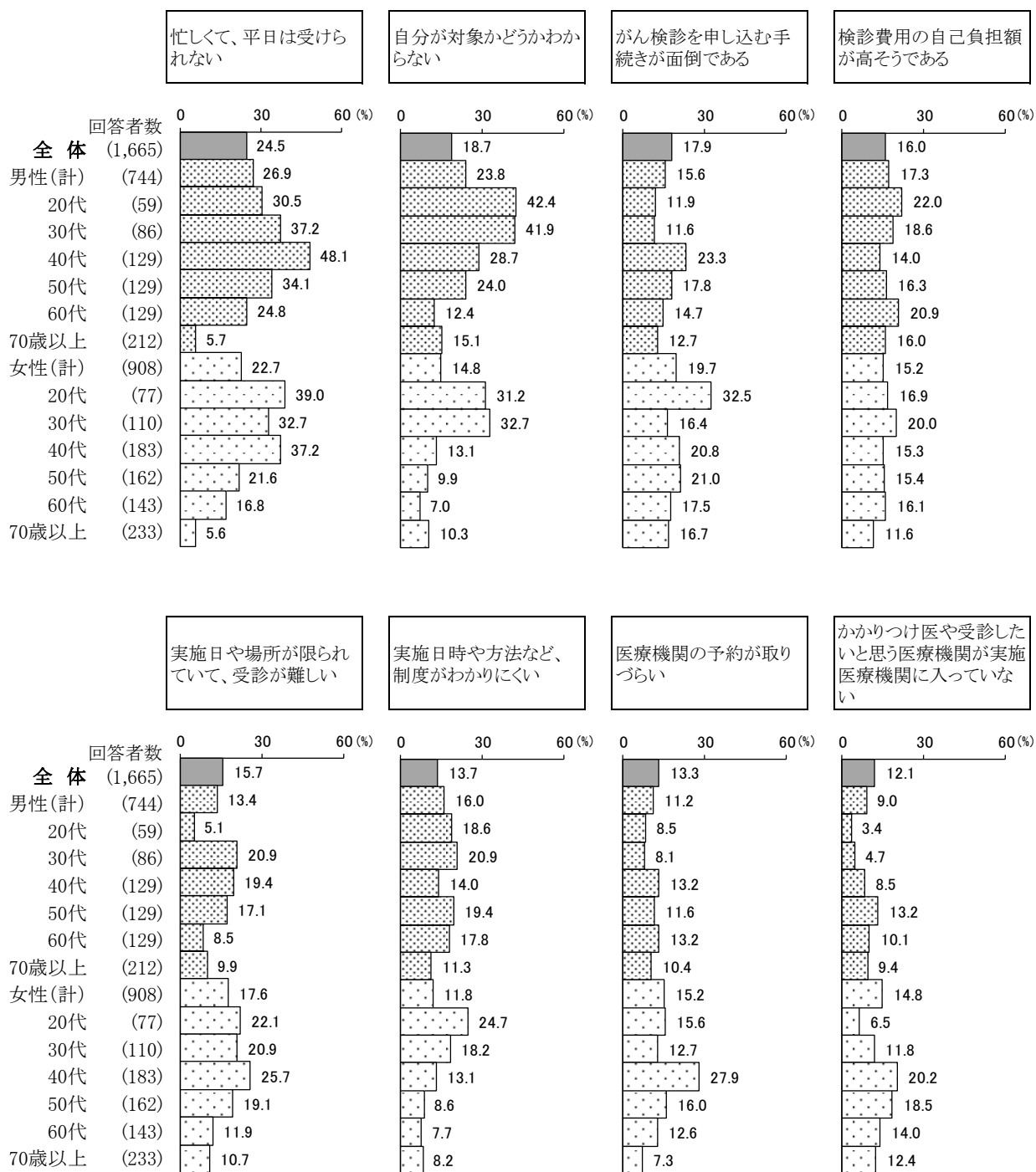
第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、男性では「自分が対象かどうか分からない」が23.8%と、女性（14.8%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性の場合、「忙しくて、平日は受けられない」は30代と40代でそれぞれ37.2%、48.1%と高く、「自分が対象かどうか分からない」は20代と30代でそれぞれ42.4%、41.9%と高くなっている。

女性の場合、20代では「忙しくて、平日は受けられない」が39.0%、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」が32.5%と、ともに他の年代より高い傾向にある。なお、「忙しくて、平日は受けられない」は20代に加えて30代と40代で、「自分が対象かどうか分からない」は20代と30代で、それぞれ3割台と高くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／がん検診制度の感想／上位8項目



6 スポーツ

-
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 運動・スポーツを行っている場所
 - (4) 障がい者スポーツへの意識・行動
 - (5) スポーツボランティア活動への意識・行動
 - (6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること
 - (7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無
 - (8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動
 - (9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ
 - (10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-

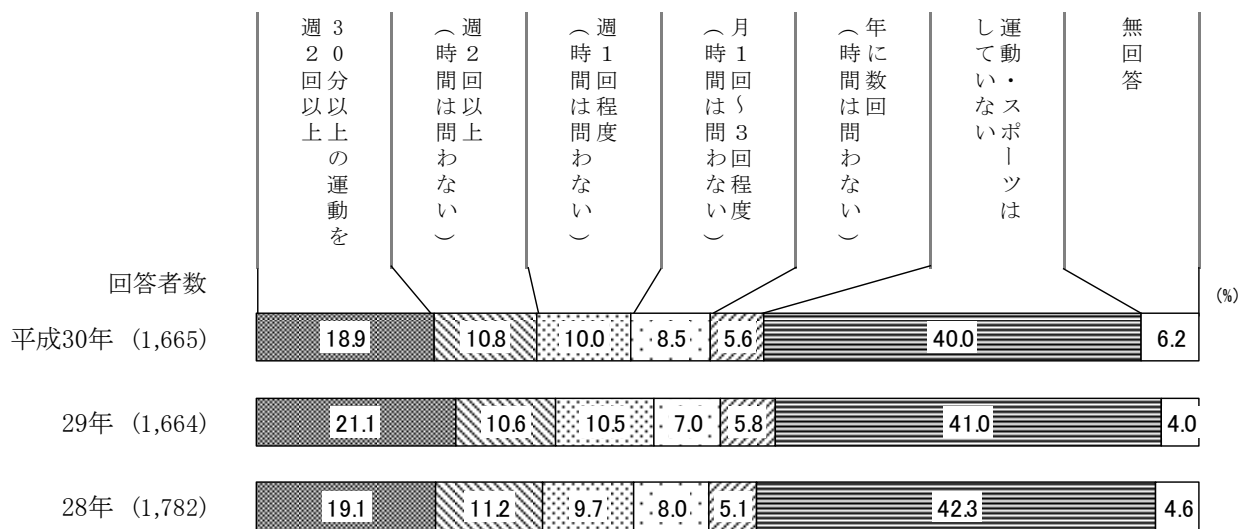
6. スポーツ

(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という人が4割

問24 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。
 ※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週2回以上」が18.9%で最も多く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（10.8%）、「週1回程度（時間は問わない）」（10.0%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は40.0%を占めている。

経年でみると、各年の回答分布に大きな変化はみられない。

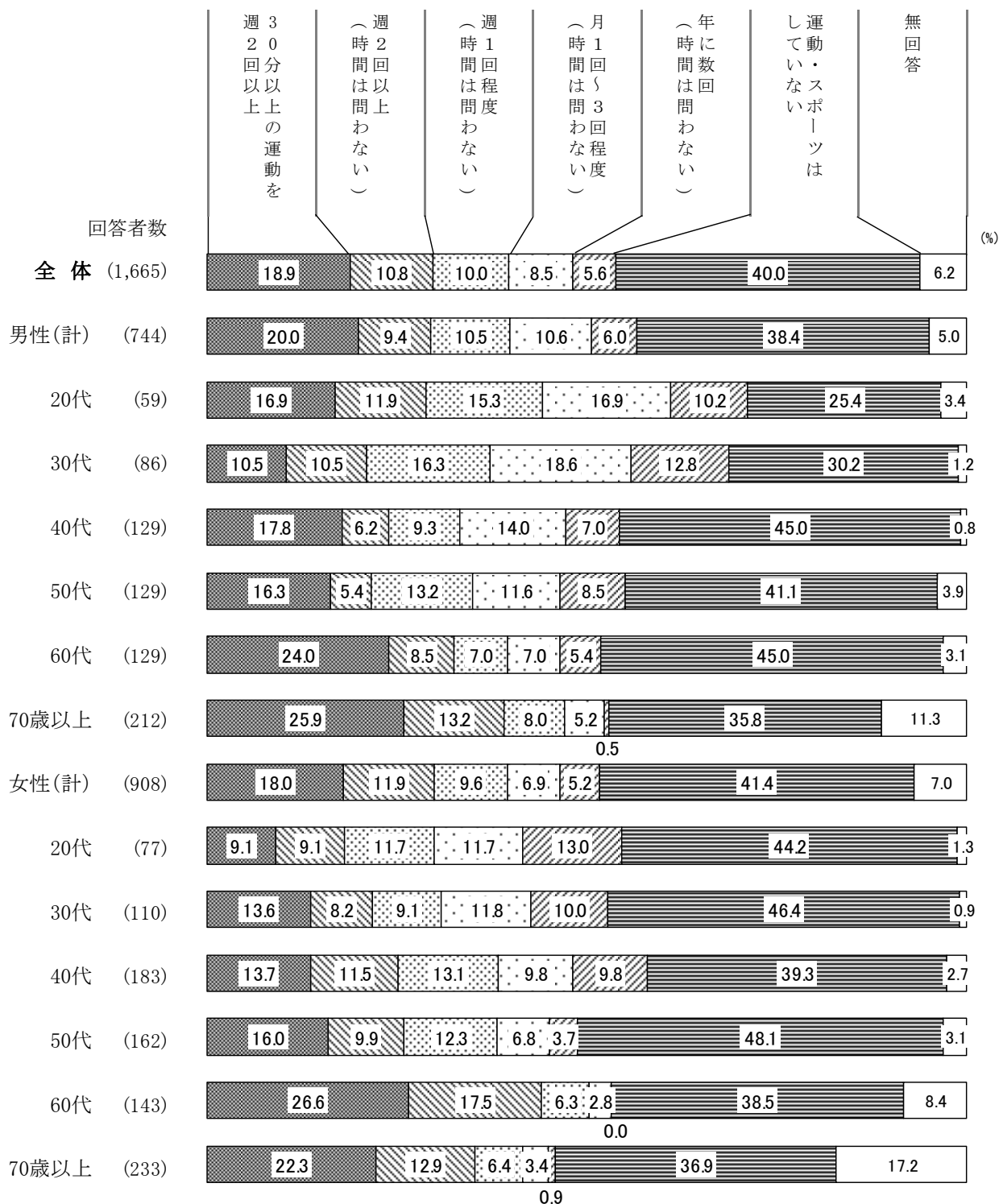
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」がともに2割台半ばと他の年代より高くなっている。一方、40代から60代の3年代層では「運動・スポーツはしていない」が4割強から4割台半ばを占めてやや高くなっている。

女性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」が2割を超えて高くなっている。一方、20代と30代、50代では「運動・スポーツはしていない」が4割台半ばから5割弱を占めている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

■ 「ウォーキング」が5割弱で突出

問24で1～5のいずれかをお答えの方に
 問24-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか。
 (〇はあてはまるものすべて)

図6-2-1-① 経年比較/継続的に実施している運動・スポーツ

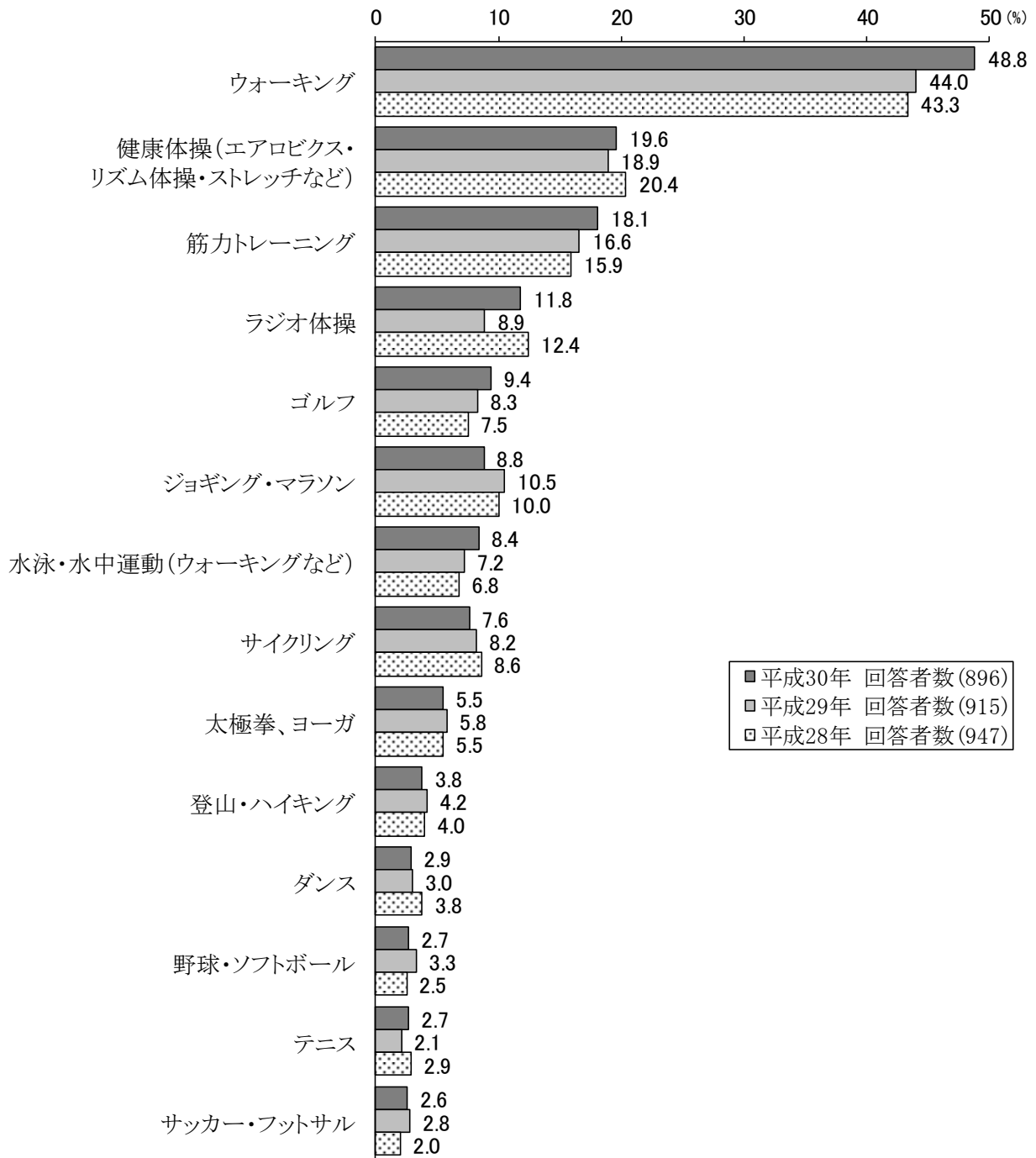
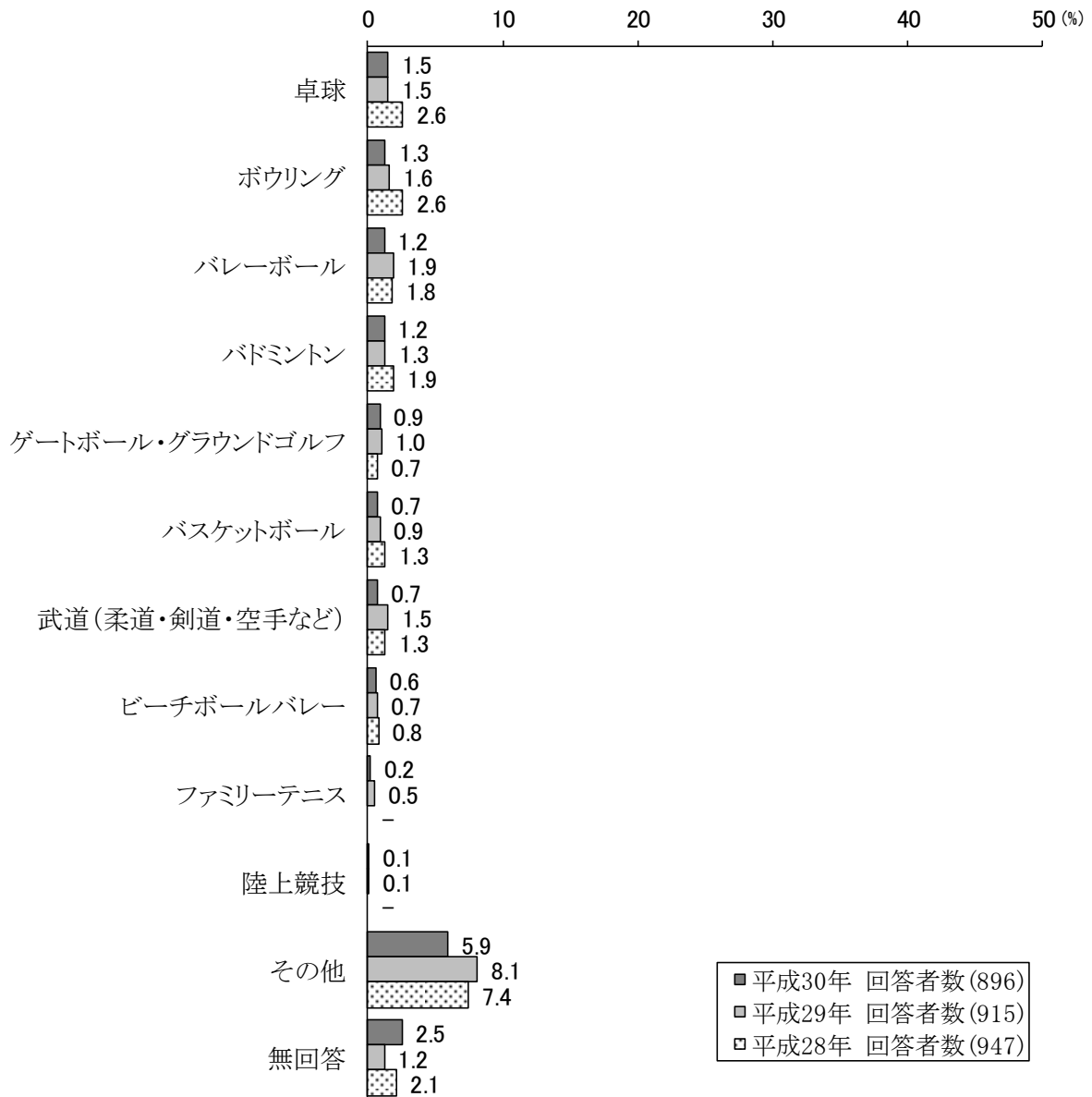


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、「ウォーキング」が48.8%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（19.6%）、「筋力トレーニング」（18.1%）の順で続いている。

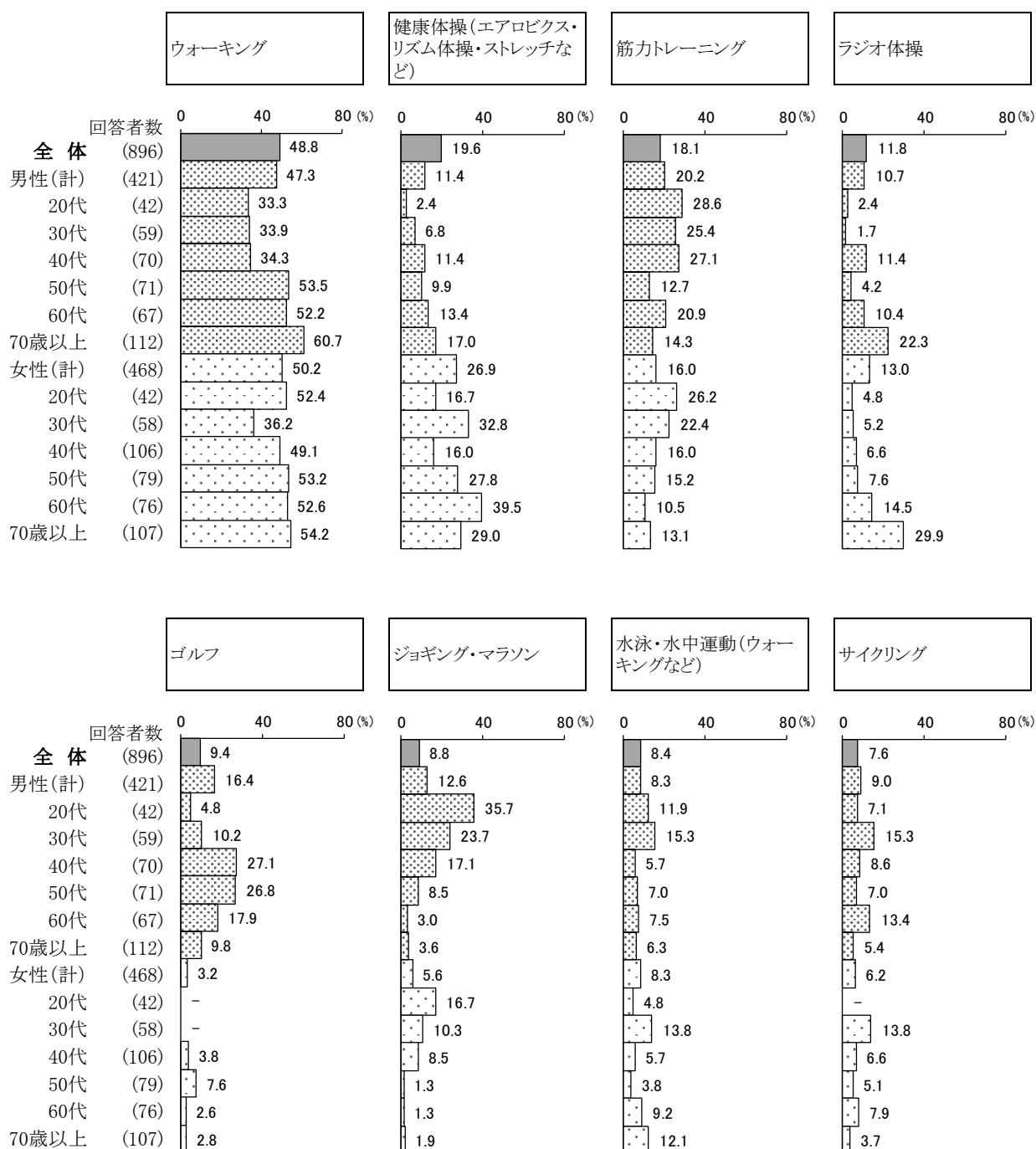
経年でみると、上位3項目の順位は変わらないものの、「ウォーキング」が平成29年より4.8ポイント増加している。

性別でみると、女性では「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が26.9%と、男性（11.4%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、50代以上の3年代層で「ウォーキング」が5割を超え、とくに70歳以上では60.7%と高くなっている。また、「筋力トレーニング」は20代から40代の3年代層で2割台後半と高くなっている。

女性では、30代と60代で「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が3割を超え、とくに60代では39.5%と高くなっている。また、「筋力トレーニング」は20代と30代で2割を超え、とくに20代では26.2%と高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを行っている場所

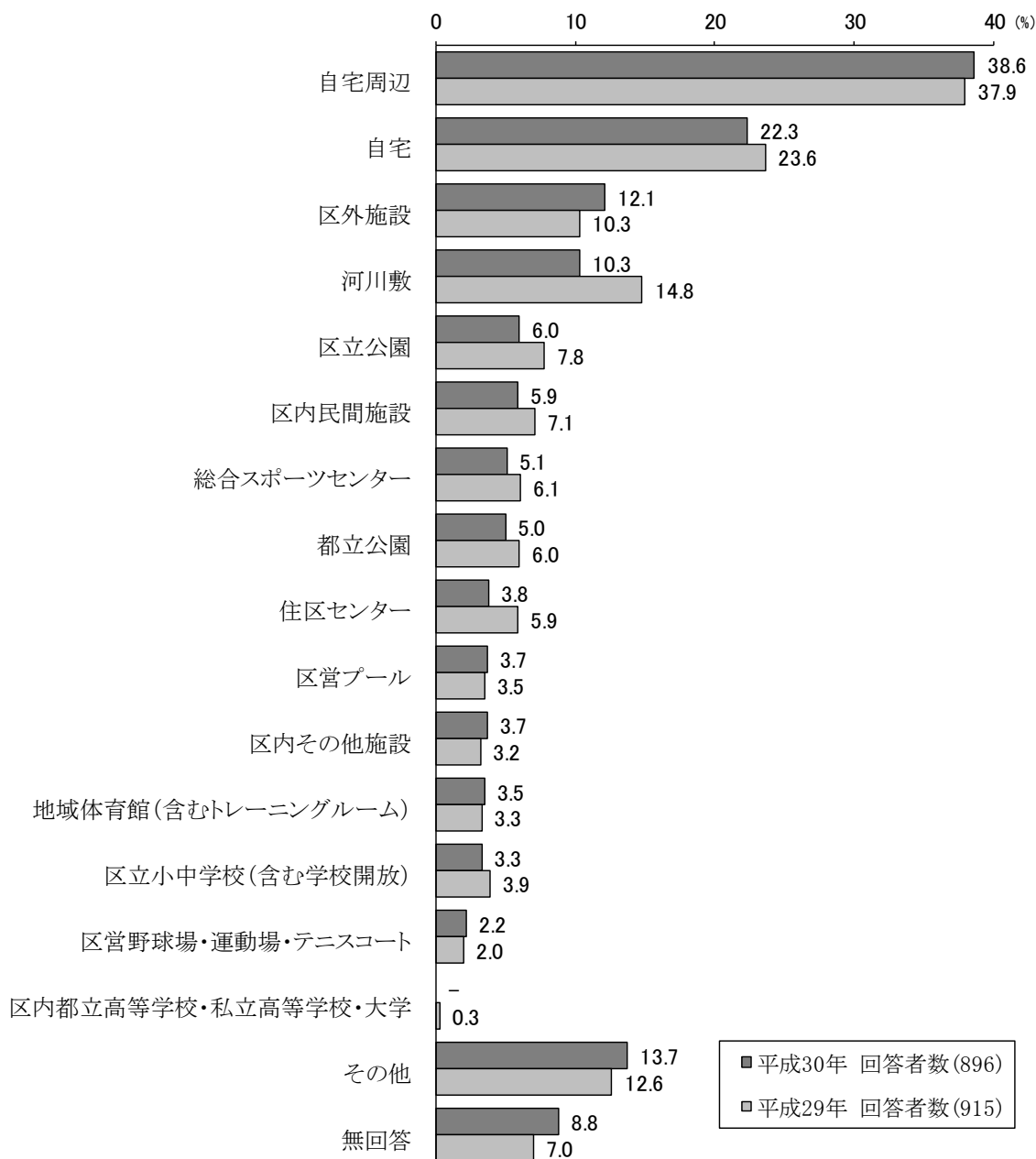
■ 「自宅周辺」が4割弱、「自宅」が2割強で上位

問24で1～5のいずれかをお答えの方に

問24-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。

(○はあてはまるものすべて)

図6-3-1 前回調査比較／運動・スポーツを行っている場所



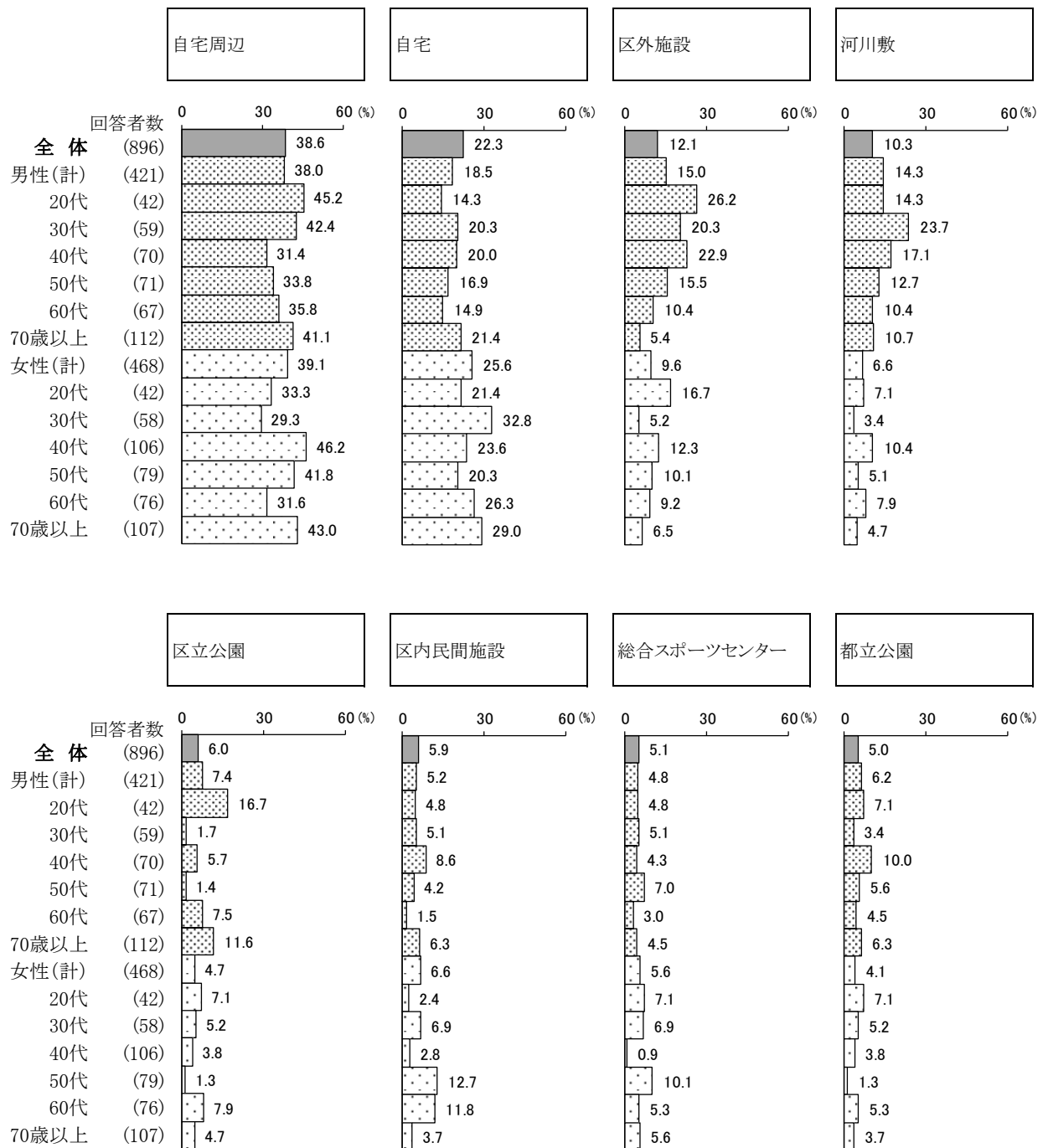
運動・スポーツの実施場所としては、「自宅周辺」が38.6%で最も高く、以下「自宅」(22.3%)、「区外施設」(12.1%)の順で続いている。

経年でみると、「河川敷」が平成29年の14.8%より4.5ポイント減少している。

性別でみると、男性では「河川敷」が14.3%と女性（6.6%）より高くなっている。一方、女性では「自宅」が25.6%と男性（18.5%）より高くなっている。

性・年代別でみると、「自宅周辺」が、男性では20代で、女性では40代で、それぞれ4割台半ばと他の年代より高くなっている。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行っている場所／上位8項目

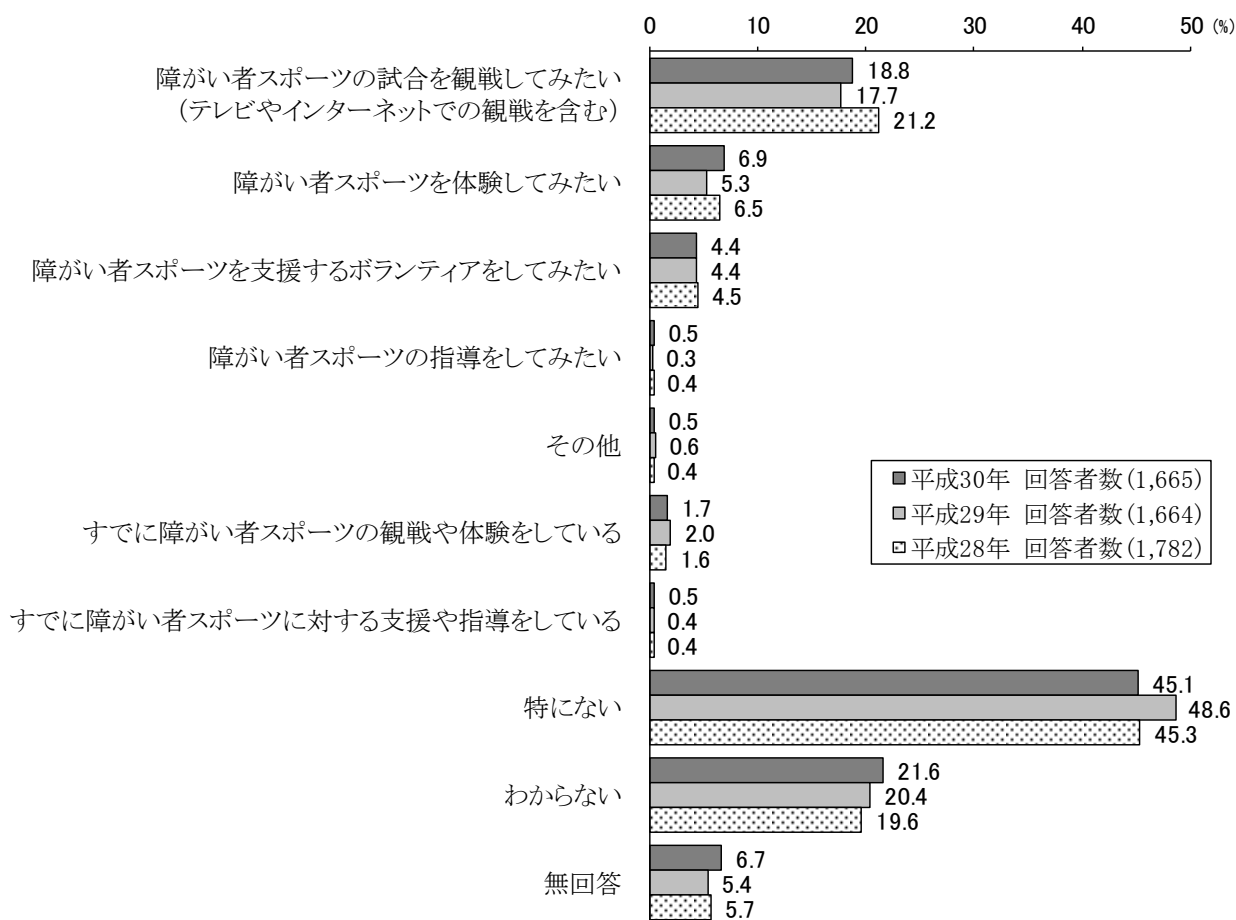


(4) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい”が2割弱

問25 あなたは、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいですか。
(〇はあてはまるものすべて)

図6-4-1 経年比較/障がい者スポーツへの意識・行動



障がい者スポーツについての意識・行動では、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が18.8%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」（6.9%）、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」（4.4%）の順で続いている。一方、「特にない」は45.1%となっている。

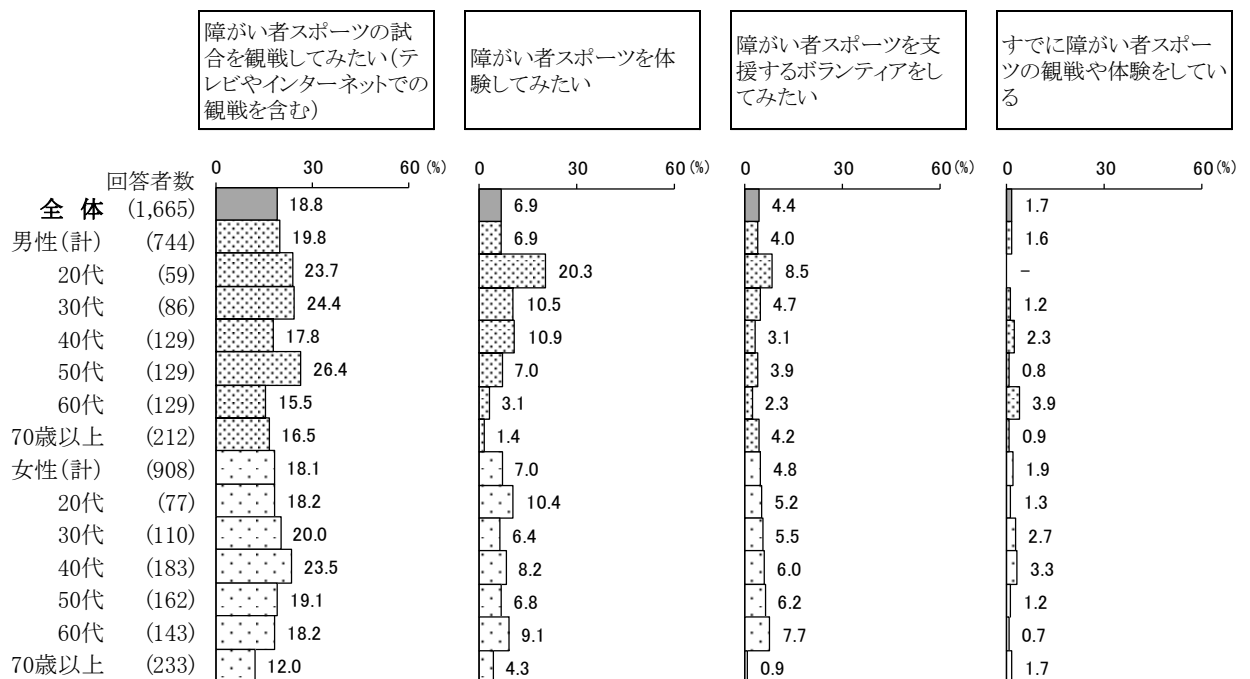
経年でみると、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が、平成29年にやや減少したものの、3年間に亘って2割前後で、大きな変化はみられない。

性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性では、20代、30代、50代の3年代層で「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」が2割台半ばと他の年代よりやや高くなっている。また、20代では「障がい者スポーツを体験してみたい」が2割を超えて高くなっている。

女性では、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」は40代で2割台半ばと最も高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

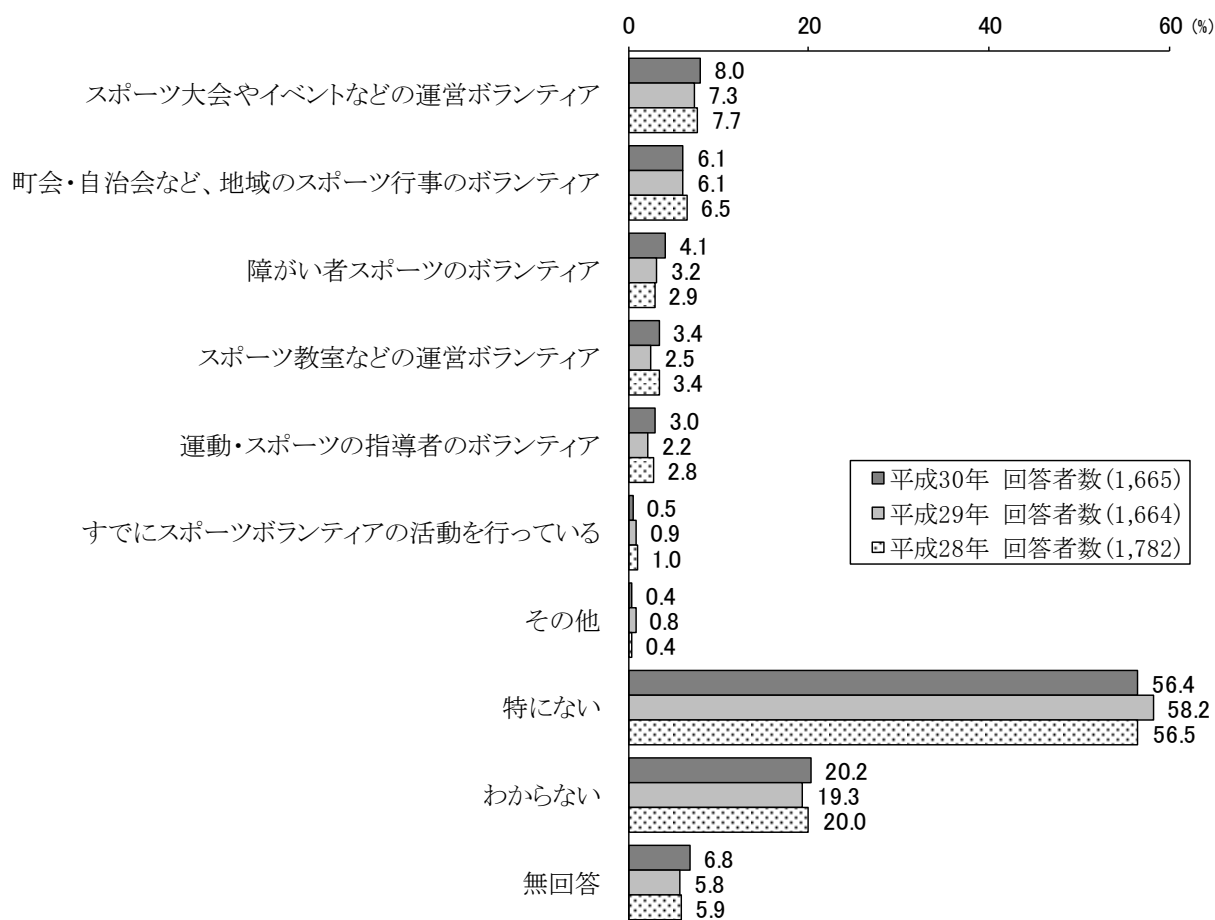


(5) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア”と“スポーツ行事のボランティア”が上位も、ともに1割未満

問26 あなたは、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいですか（〇はあてはまるものすべて）。

図6-5-1 経年比較／スポーツボランティア活動への意識・行動



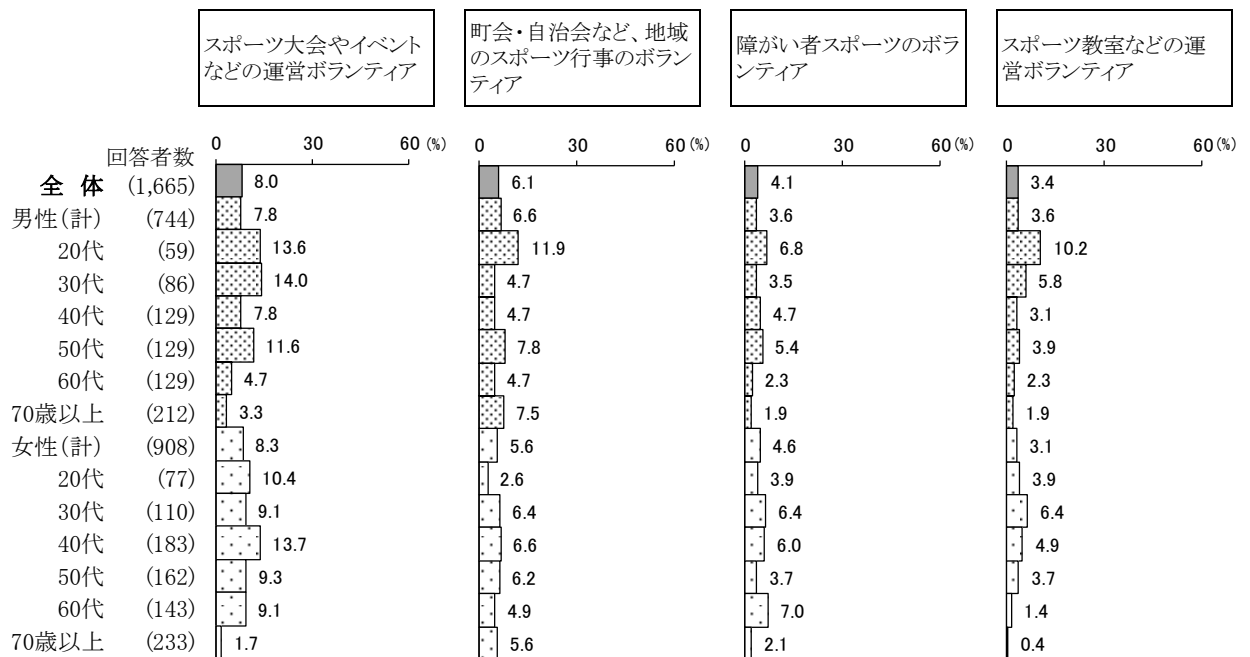
スポーツボランティア活動でしてみたいことについては、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が8.0%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.1%)、「障がい者スポーツのボランティア」(4.1%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(3.4%)の順で続いている。一方、「特にない」は56.4%で過半数となっている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられない。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」は、男性では20代と30代で、女性では40代で、それぞれ1割台半ばと他の年代よりやや高くなっている。

図6-5-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

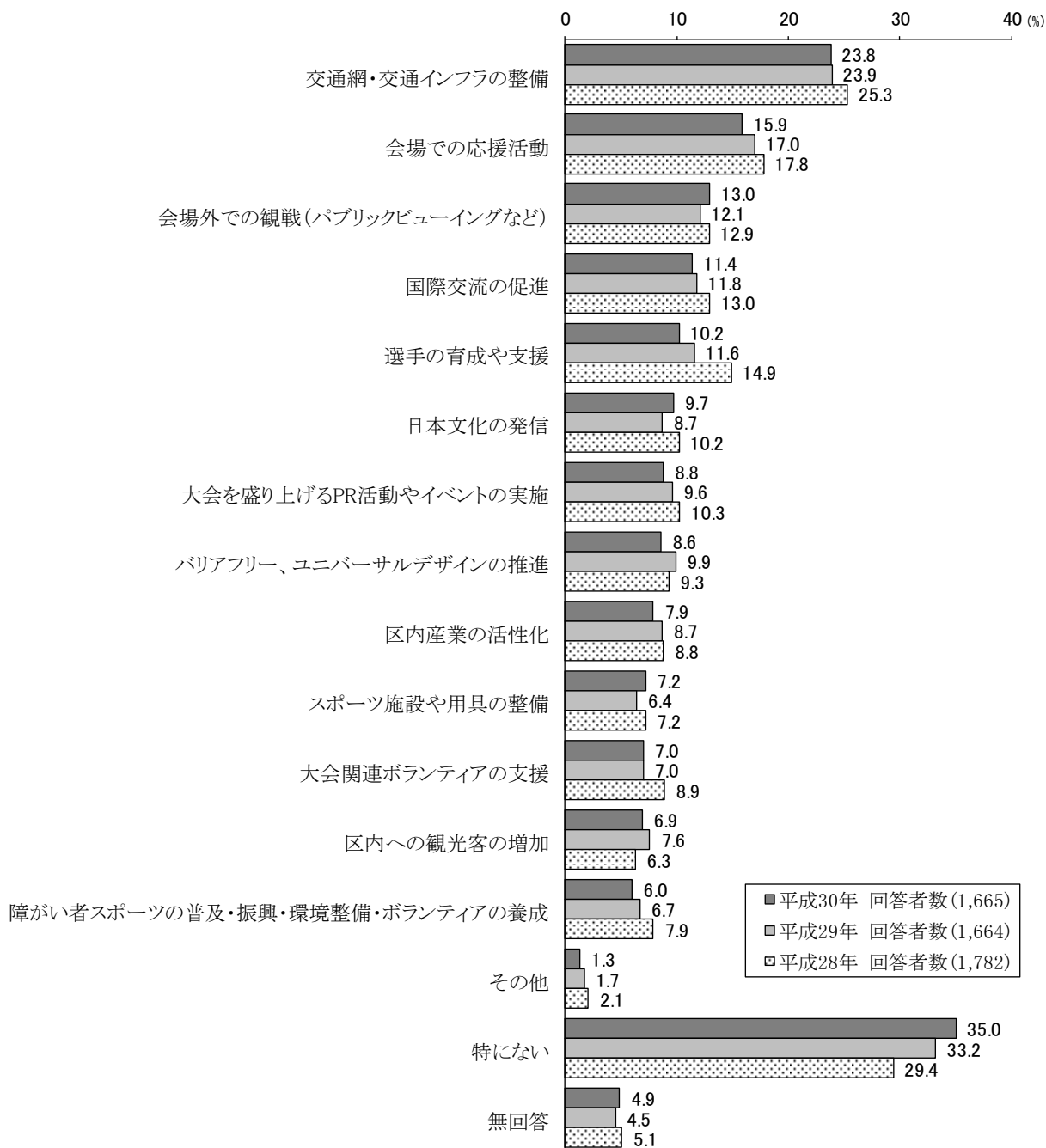


(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割台半ばで最多も、「特にない」が3割台半ばに達する

問27 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

図6-6-1 経年比較
 ／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が23.8%で最も高く、以下「会場での応援活動」(15.9%)、「会場外での観戦」(13.0%)、「国際交流の促進」(11.4%)、「選手の育成や支援」(10.2%)の順で続いている。一方、「特にない」が35.0%となっている。

経年でみると、順位に大きな変化はみられないが、「選手の育成や支援」は今回10.2%で平成28年の14.9%からは4.7ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

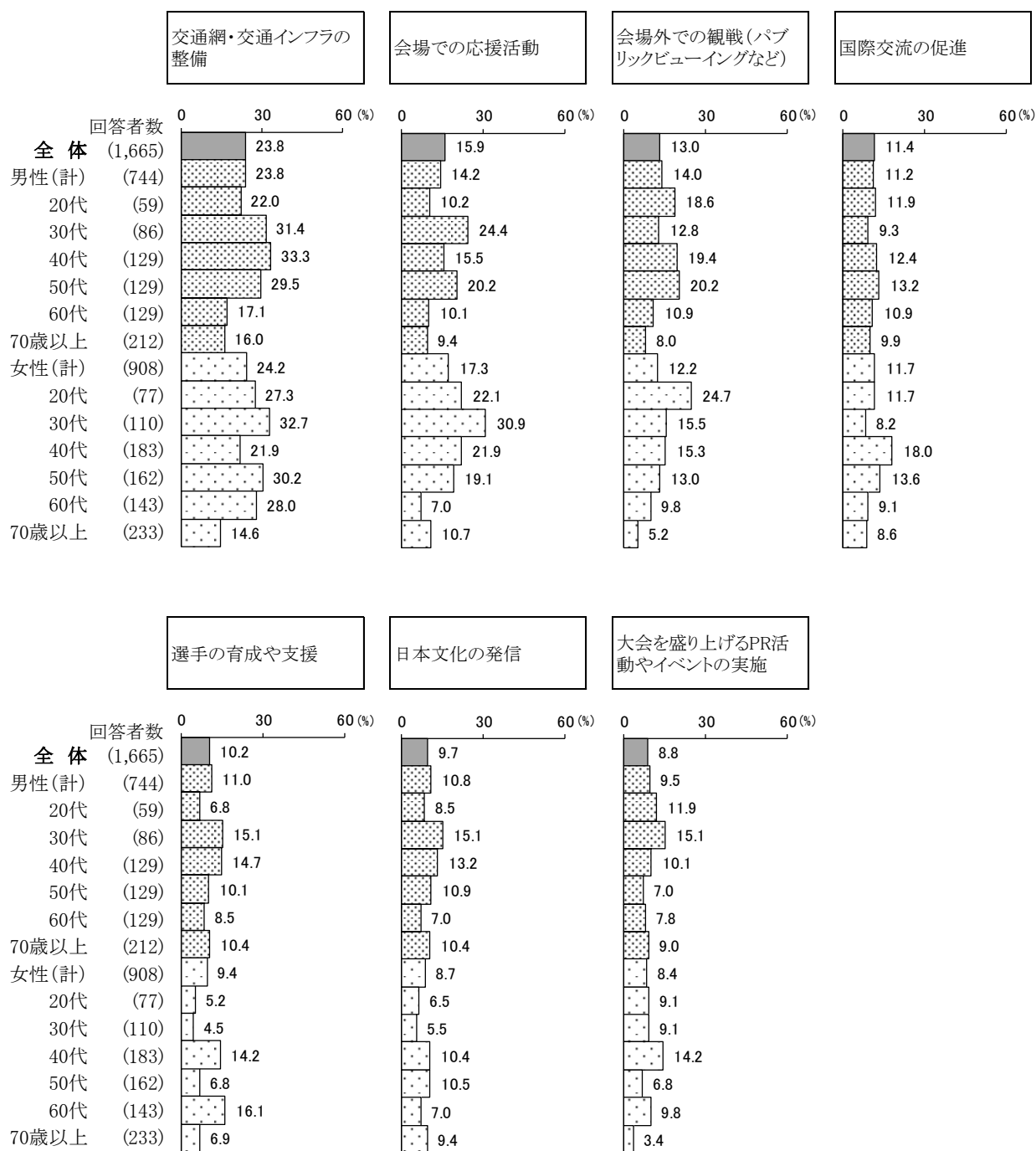
性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代から50代の3年代層で「交通網・交通インフラの整備」が3割前後と高く、加えて30代では「会場での応援活動」も2割台半ばと高くなっている。

女性では、30代と50代で「交通網・交通インフラの整備」が3割を超えて高く、加えて30代では「会場での応援活動」も3割強と他の年代より高くなっている。

図6-6-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること／上位7項目

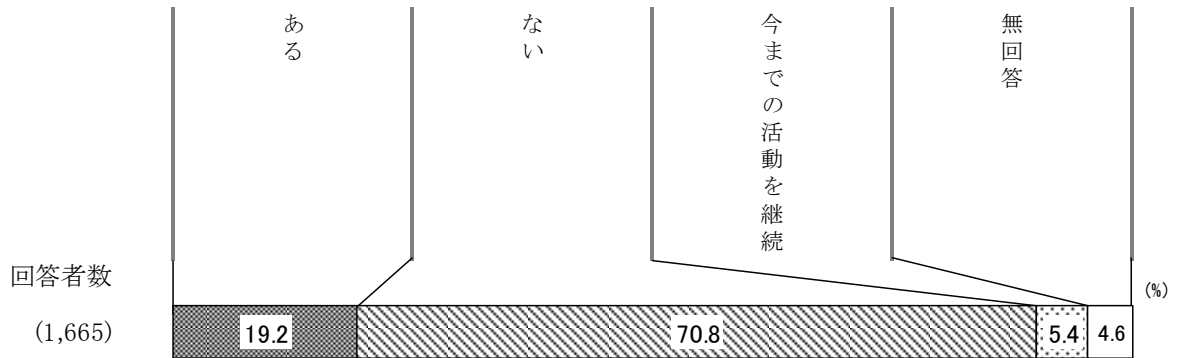


(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

■ 新たに始めたい活動がある人は2割弱みられるも、「ない」が7割強と多数

問28 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場でもあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などがありますか（〇は1つだけ）。

図6-7-1 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無をみると、「ある」が19.2%、「ない」が70.8%、「今までの活動を継続」が5.4%となっている。

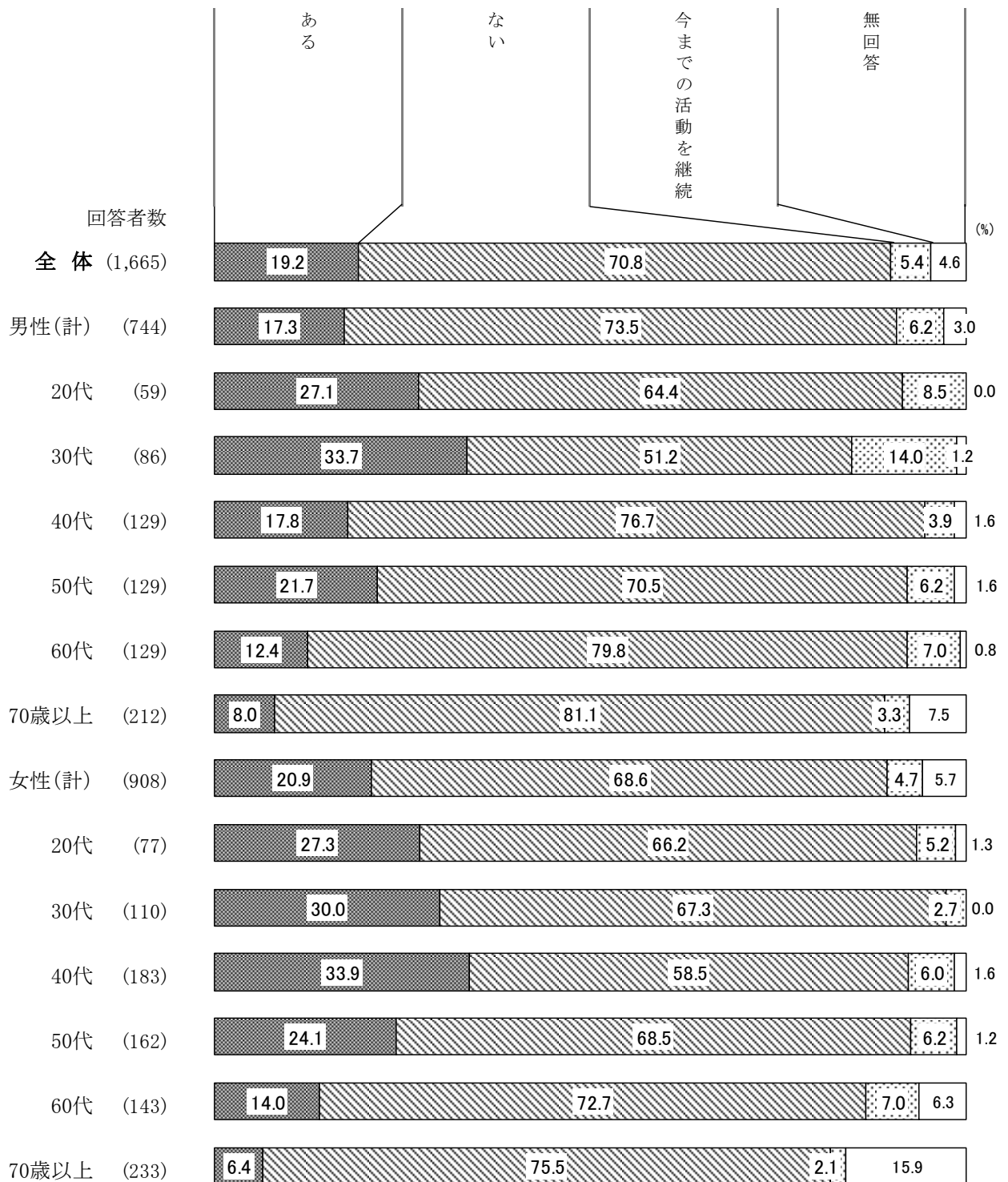
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代と30代で「ある」が3割前後と高くなっている。

女性では、20代から40代の3年代層で「ある」が3割弱から3割台半ばと高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

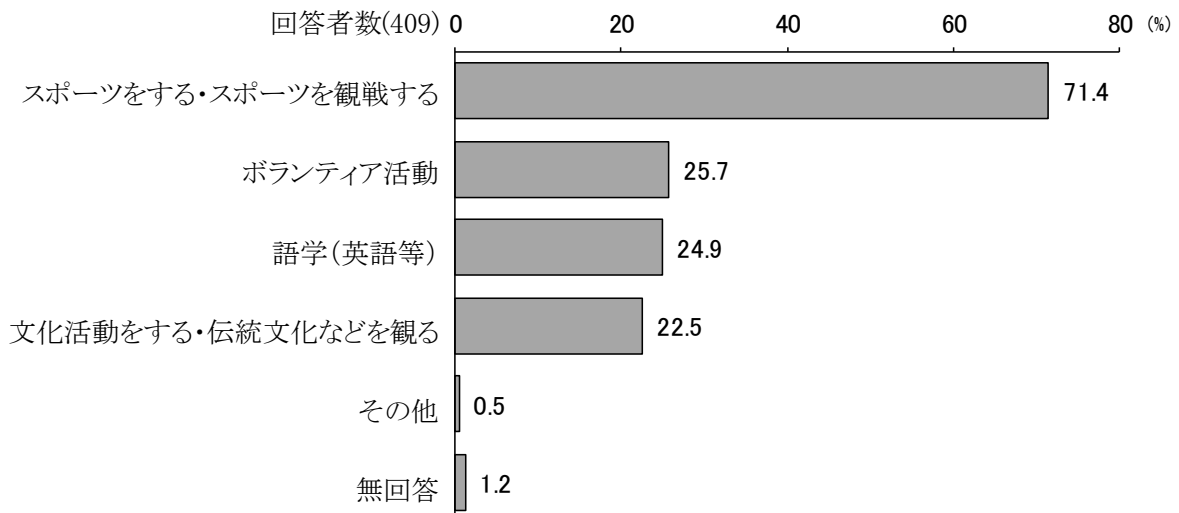


(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動

■ “スポーツをする・観戦する”が7割強

問28で「1. ある」、または「3. 今までの活動を継続」とお答えの方に
 問28-1 それは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図6-8-1 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動



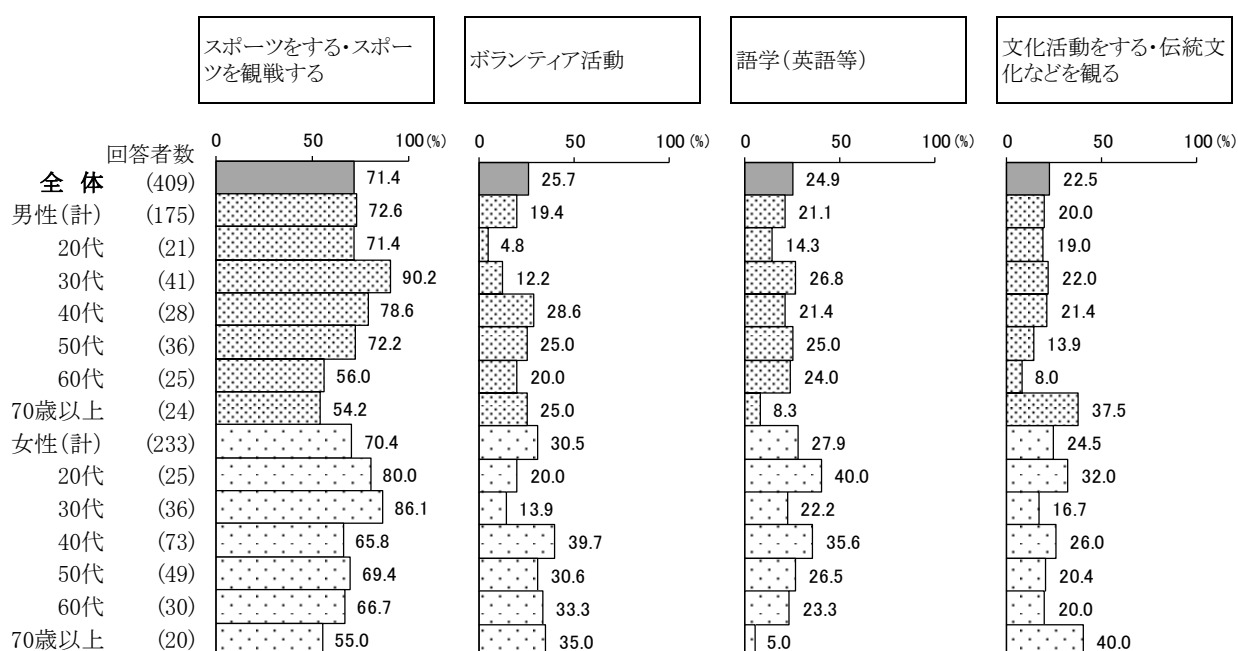
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動がある、または、今までの活動を継続と回答した人に対して、活動の内容を聞いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が71.4%で最も高く、以下「ボランティア活動」(25.7%)、「語学(英語等)」(24.9%)、「文化活動をする・伝統文化などを観る」(22.5%)の順が続いている。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別で見ると、女性では「ボランティア活動」が30.5%と男性（19.4%）より高くなっている。
 性・年代別で見ると、男性では、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が30代で9割に達し、40代でも8割弱と高くなっている。加えて、40代では「ボランティア活動」が3割弱と他の年代よりやや高くなっている。

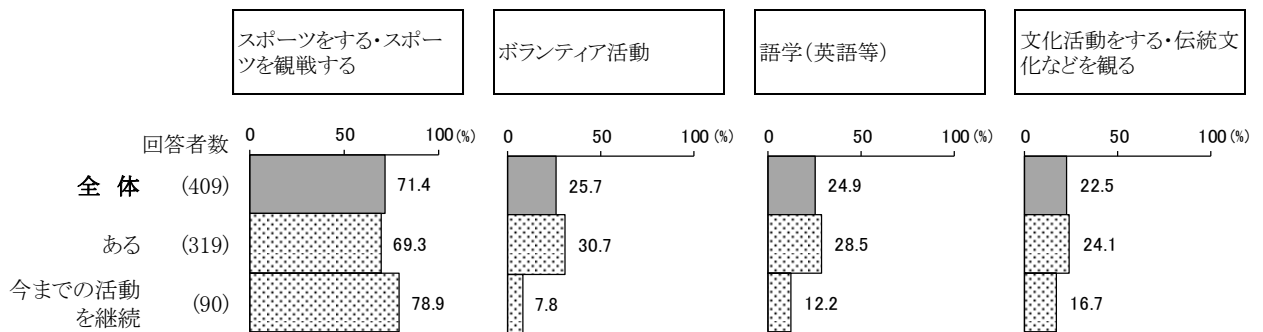
女性では、20代と30代で「スポーツをする・スポーツ観戦する」が8割を超えて高く、40代では「ボランティア活動」が39.7%と高くなっている。加えて、20代と40代では「語学（英語等）」もそれぞれ40.0%、35.6%と高くなっている。

図6-8-2 性別、性・年代別
 ／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層、および、今までの活動を継続と回答した層別にみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」は、層別による大きな違いはみられない。一方、「ボランティア活動」は、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層で30.7%と高くなっている。

図6-8-3 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無別
 ／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目

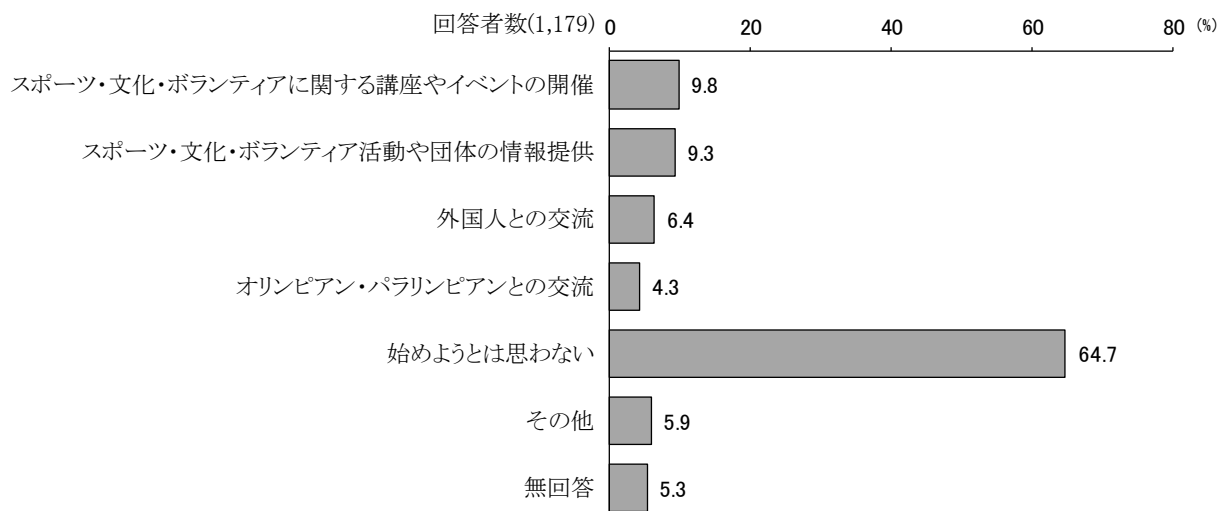


(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ

■ “講座やイベントの開催”が約1割で最も、「始めようとは思わない」が6割台半ばに達する

問28で「2. ない」とお答えの方に
問28-2 どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

図6-9-1 スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ

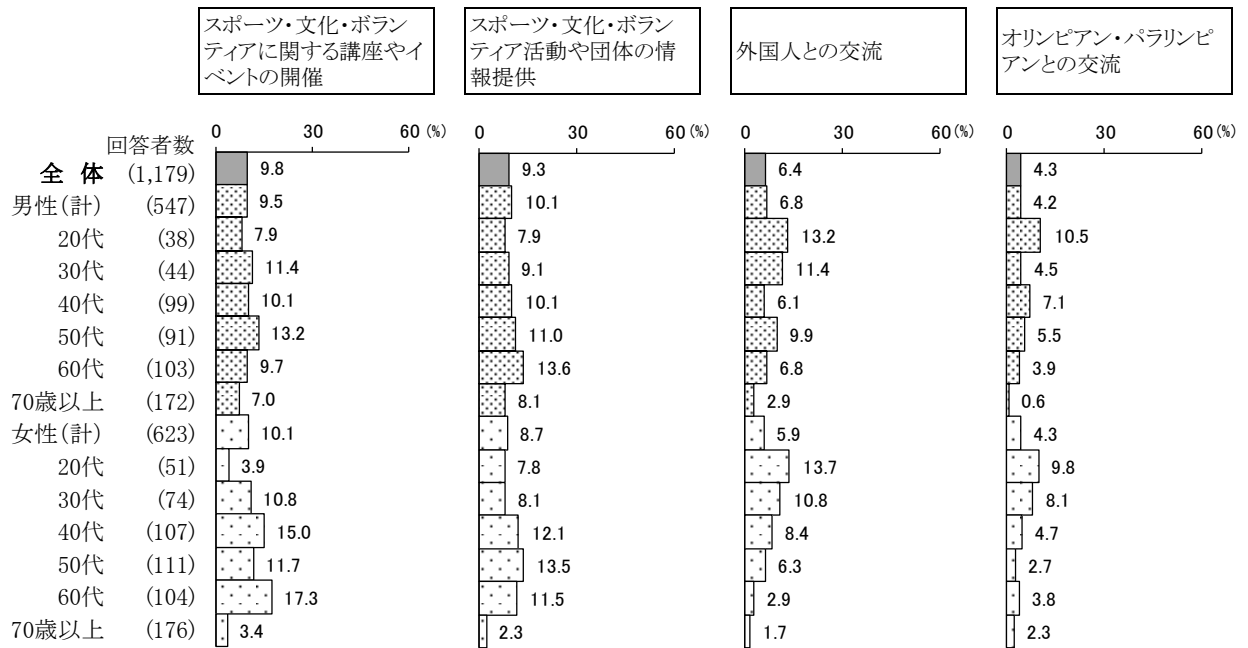


2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動はないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思うかを聞いたところ、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」が9.8%で最も高く、以下「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(9.3%)、「外国人との交流」(6.4%)の順となっている。一方、「始めようとは思わない」は64.7%となっている。

性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」は女性の40代と60代でやや高く、「外国人との交流」は男女ともに20代と30代でやや高くなっている。

図6-9-2 性別、性・年代別／スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ／上位4項目

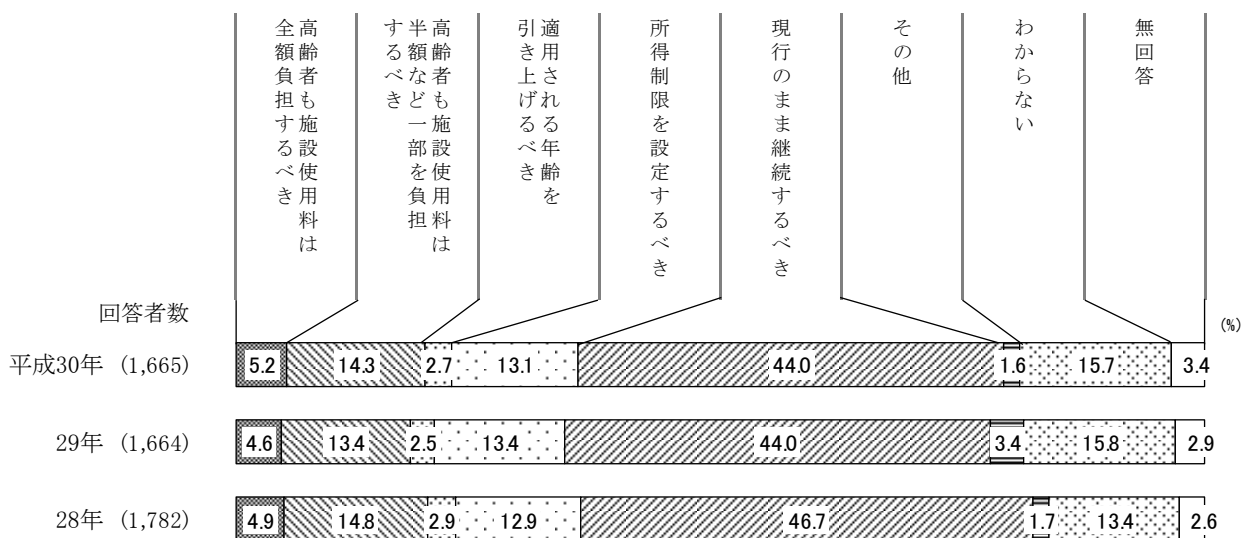


(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が4割台半ばで主流

問29 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-10-1 経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が44.0%で最も多く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」（14.3%）、「所得制限を設定するべき」（13.1%）の順で続いている。

経年でみると、それぞれの回答分布に大きな変化はみられない。

性別でみると、「現行のまま継続すべき」は男性43.1%、女性44.6%で、男女の回答分布に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代で「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」が23.3%、「所得制限を設定すべき」が20.9%と、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。一方、40代では「所得制限を設定すべき」が30代と同率の20.9%と高いものの、「現行のまま継続すべき」が54.3%と他の年代に比べて高くなっている。

女性では、30代と40代で「現行のまま継続すべき」が5割強と高くなっている。

図6-10-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

